

令和3年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

令和3年9月6日（月曜日）

議事日程第3号

令和3年9月6日（月曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 17名

〈出席議員〉 17名

1番	利根川	正君	2番	阿部	裕和君
3番	横山	人美君	4番	新保	峰孝君
5番	松尾	徹郎君	6番	伊藤	麗君
7番	田原	洋子君	8番	渡辺	栄一君
9番	加藤	康太郎君	10番	東野	恭行君
11番	保坂	悟君	13番	和泉	克彦君
14番	宮島	宏君	15番	中村	実君
16番	近藤	新二君	17番	古畑	浩一君
18番	田原	実君			

〈欠席議員〉 1名

12番 田中立一君

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長 米田 徹君 副市長 井川 賢一君

総務部長	五十嵐 久英君	市民部長	渡辺 成剛君
産業部長	斉藤 喜代志君	総務課長	渡辺 忍君
企画定住課長	渡辺 孝志君	財政課長	山口 和美君
青海事務所長	猪股 和之君	環境生活課長	猪又 悦朗君
健康増進課長	池田 隆君	商工観光課長	大嶋 利幸君
農林水産課長	木島 美和子君	建設課長	斉藤 浩君
都市政策課長	五十嵐 博文君	消防長	小林 正広君
教育長	蘆本 修一君	教育次長	磯野 茂君
教育委員会子ども課長	磯野 豊君	教育委員会子ども教育課長	富永 浩文君
教育委員会生涯学習課長	穂 莉 真君	教育委員会文化振興課長	伊藤 章一郎君
中央公民館長兼務		市民会館長兼務	
市民図書館長兼務			

〈事務局出席職員〉

局長	松木 靖君	次長	松村 伸一君
主査	川原 卓巳君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、田中立一議員であります。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（松尾徹郎君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、1番、利根川 正議員、10番、東野恭行議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

3日に引き続き、通告順に発言を許します。

近藤新二議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。〔16番 近藤新二君登壇〕

○16番（近藤新二君）

おはようございます。創生クラブの近藤新二です。

事前に提出した通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、人口減少対策について。

当市の人口は、1市2町が合併した平成17年3月には4万9,844人でしたが、令和3年8月1日現在では、4万822人と16年間で約9,000人が減少となり、人口減に歯止めがかからない状況です。

第2次糸魚川市総合計画の人口及び世帯数の推移と将来推計では、平成35年（令和5年）の目標人口が4万900人と設定されています。毎年、人口減少対策に対する事業を推進していても、人口増になっていないのが実態です。

人口減少が及ぼす市の財政問題や地域経済は、市民にとって近い将来に大きな問題となってきます。昨年と今年はコロナ禍の中で事業もままならない状況ですが、減退することなくスピード感を持って確実に進めるために、今までの事業の課題解決や見直しが必要と考えますが、以下の項目について伺います。

(1) 移住定住の促進に関する主要事業別の推移について伺います。

(2) 結婚を希望する男女への婚活支援について伺います。

2、防犯・交通安全対策の充実について。

今年の6月28日に千葉県八街市の市道で、歩いて下校途中の市立朝陽小学校の児童の列にトラックが突っ込み、男女5人が死傷する悲しく痛ましい事故が発生しました。

当市の各地域においては、防犯活動や登下校時の見守り等の活動を実施していますが、子供たちを守るための防犯・交通安全対策は十分と言えるか、以下の項目について伺います。

(1) 児童が安全に登下校する通学路の安全施設等の点検状況について伺います。

(2) 市内幼稚園・保育園や小中学校の防犯カメラの設置状況について伺います。

(3) 市所有車へのドライブレコーダー設置状況について伺います。

3、糸魚川産木材について。

7月20日に建設産業常任委員会の委員会協議会において、「林業振興について」の意見交換を行いました。

ウッドショックによる現在の状況では、地元製材業者は値段が高くても地元の木材を購入しており、ぬながわ森林組合は、地元製材業者に、ほかより値段を下げて販売しているという、地元業者間の努力が伺えました。

地元製材業者は外来材や県外の材料と値段が折り合うよう、糸魚川産木材の値段を下げて営業することにより、収益が見込めないため、地元製材業者の廃業が続いている現状をどのように考えるか伺います。

以上で、1回目終了させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

近藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、修学資金返済支援事業では、元年度42件、2年度50件の利用があり、賃貸住宅家賃補助事業では、元年度29件、2年度では34件の利用となっております。

2点目につきましては、民間団体が主催する婚活イベント支援や県の婚活マッチング事業への入会支援をはじめ、若者の多様なライフスタイルに合わせた出会いの場の創出や縁結び相談会などを実施いたしております。

2番目の1点目につきましては、毎年、各学校において実施してる点検に加え、地元地区やPTA、さらには防犯パトロール員からも実施いただいております、点検結果について情報の共有を図っております。

2点目につきましては、昨年度までに市内全ての幼稚園、保育園及び小・中学校で防犯カメラを設置いたしております。

3点目につきましては、元年度に全ての市所有の一般車両へドライブレコーダーを設置いたしております。

3点目につきましては、林業を取り巻く環境は、全国的にも厳しく、安価な輸入材の増加や大手ハウスメーカー等の進出によりまして、製材業者の減少につながってるものと捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ご答弁ありがとうございました。

1の人口減少対策について、（1）移住定住の促進について伺います。

移住定住の促進事業は、糸魚川市への移住を希望する人に対し、市内の仕事、住まい、地域などの生活に身近な情報を提供し、スムーズに暮らし始める支援を行う基本方針がありますが、平成27年度に支援制度を利用して移住された方は6人でしたが、それ以降に移住された方は、計画目標に対してどのように推移してきたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

おはようございます。

お答えいたします。

平成27年度に第1期のまち・ひと・しごと創生総合戦略をつくって、進めてまいりました。28年度以降が実質の支援制度の創設ということになります。当課で把握している移住者の数につきましては、平成30年度で43人、令和元年度では64人、令和2年度では50人となっております。コロナの関係で非常に厳しいところもありますが、これといった点は、順調に推移してきたものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ありがとうございます。昨年コロナ禍の中で、首都圏などへUIターンの相談会ができない状況だと思いますが、東京の有楽町と表参道にある、にいがた暮らし・しごと支援センターや糸魚川市への相談件数は、コロナ前と比べどのようになっているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

確かに移住相談会、令和2年度は非常に、元年度の後半からなんです。非常に苦戦しているという状況になります。かつては東京・大阪で年10回ほど、こちらから出向いていろんな情報の発信ですとか地元の方もちょっとお願いする中で進めてまいりましたが、今はやっぱり対面的なやり取りというのがなかなかできないというところが、非常に苦戦しているところであります。

そういった状況でもございますが、何とでも進めたいという形で、オンラインによる相談という形で昨年からは進めてまいりましたが、やはり移住者の相談される方にとっては、対面で、やっぱりコミュニケーションじゃないんですが、臨場感がある、そういった対面形式を望まれてるところが傾向としてございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

移住者を希望される方は、移住体験というものも制度がありますが、宿泊が2泊までの短期的な、ちょっと糸魚川暮らしと、セミオーダー型移住体験ツアー、また、宿泊がもう少し長い、1週間から1か月の滞在型の、移住体験交流施設水上と、糸魚川で暮らす・働く応援プロジェクトなど、積極的に利用者のニーズを合わせたプランをよく検討されてると思いますが、今までの利用者数と、新たに導入されたプランの応募状況を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず、お尋ねのちょこっと糸魚川暮らしであります。平成30年度では24件、令和元年度では27件、令和2年度では12件となっております。

また、働く・暮らす応援プロジェクト、インターンシップでは、平成30年度は4人で行いました。令和元年度も4人ですが、残念ながら令和2年度は、コロナの状況という形で、こちらへなかなか来れないというところがあって、実績には至っておりません。

また、令和元年度から水上という形で空き家を改修した体験施設を試行的にやってまいりました。こちらのほうは、イベントの利用もございました関係で、令和元年度の実績は24人という形で実績がございます。やはり移住の体験をされる方については、特にプランという形で、まずこちらへ来たいという、糸魚川を選んでいただくということは何なのかという視点に捉えております。いろんなやっぱりご希望があるということですね。糸魚川のやっぱり教育のことが知りたいですか、特に自然、アクティビティ的などころが知りたいとか、ちょっとこうしたテレワークができるとか、そういったニーズがありますので、それぞれに応じた体験活動に応じてこの広い糸魚川市でございますので、このフィールドを目いっぱい使って展開してるという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ありがとうございます。これからも移住体験をされた方々のご意見をよく聴き、検証と改善を引き続き繰り返し、人口減少対策につながるよう、よりよい事業に発展するよう要望します。

続いて、（2）の結婚を希望する男女への婚活支援について1つ目ですが、縁結びコーディネーター事業では、結婚を希望する独身男女の出会いの支援や結婚に関わる相談、サポートコーディネーターの方々が、ボランティア活動で行っていると聞いておりますが、現在のコーディネーターの人数は何人で、その人数が十分と言えるか。また、コーディネーターの方のお力で結ばれたカップルは、今まで何組いるか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

まず、コーディネーターの皆さんの数ですが、現在6人の方でお願いしているところであります。

2点目の、これが十分なのかというお尋ねであります。決して十分であるというふうには思っておりません。やっぱり幅広く活躍してくださる方が、特に若い世代でも含めてなんですけども、出てきていただけることを願っているというところになります。

それから、あと成果になりますが、この制度は平成19年度から実施いたしております。これまでの間、29人の成婚の実績がございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

続いて、糸魚川市ハッピー出会い創出事業では、婚活イベント等を行う企業等に対して、イベント費の費用の一部を補助し、独身者に対する各種講座の開催、出会いの場の提供とのことですが、これまでの実績を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

こちらのほうも、先ほどの縁結びコーディネーターと同じように、平成19年度の制度が始まっております。これまで回数でいきますといろんな方がご協力いただきまして、40回を開催いたしまして、参加者につきましては、正確な数は、ちょっと申し上げられないんですが、もう1,000人を超えていくという参加者がございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

糸魚川商工会議所で行っている、みんな集まれ新しい出会い応援パーティーのイベントは、令和元年の10月で6回が開催されてます。定員が、男女各15名でしたが、男性20名、女性22名と定員を上回る多くの方が参加され、カップルも成立し、近々結婚するという情報もあります。

糸魚川商工会議所の担当者に現状の課題を聞きますと、このイベントに参加される人は、まだいいほうです。ここに来られない人が問題で、多くの人は恥ずかしさや結婚に対して問題視されていないと言われてます。

また、糸魚川市の第2次総合計画の中でも結婚を希望する男女への婚活支援の現状と課題では、婚活イベントにおいても積極的な参加が少ないことが問題であり、参加者の結婚に対する意欲を高めるとともに、結婚を希望する男女が参加しやすいような、時代に合った出会いの場を設定する必要がありますと書かれています。糸魚川市の出前講座やコーディネーターの方々等で結婚に対する意識を改善する講座等を開催する考えはありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員のご質問であります。確かに結婚に対する意識の改善というのは、非常に大事だというふうに思っております。引き続き、コーディネーターの皆さんといろいろな情報を重ね合わせ、いろいろな相談会ですとか、いろいろな情報を集める中でのイベントというのは、実施してまいりたいというふうに考えております。

また、そのほか行政のほうでも、各課でいろんな若い人たちとか多世代の方が集まる機会というのが、いろんなイベント、講座、教室、形を変えているところがあります。当課でも、若者の力を活用する事業ですとか、企業さん同士でうまく交流会ができるとか、そういったセミナーも含めた中での取組も進めてまいりますので、引き続き、多くの皆さん方から出ていただけるような形を、コーディネーターさんをはじめ、それから企業の皆さんもちょっと呼びかける中で考えていかなければならないというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ありがとうございます。私もこの3月まで一般企業におりまして、企業の中でも未婚者という問題が、かなり大きくクローズアップされてまして、企業単体でこういったことをやろうと考えたんですが、やはりその中でセクハラ・パワハラという問題が、若干見え隠れしますんで、これは行政と、やっぱり企業がタイアップして、そういった場を提供して、講座を受けやすいような環境にするというのが必要かなと思ってますんで、引き続き、この件についてよろしくお願いします。

次に、2の防犯交通安全対策の充実についてですが、八街市の事故が起きた通学路には、八街市側からは、以前にガードレールの設置要望が出ていたことを明らかにし、大変申し訳ないが十分な措置ができていなかったと述べ、市は、事故が起きた通学路の制限速度の規制や道路を凸型に舗装する対策を進めるといった事故後の報道がありました。が、当市、糸魚川市においてそのような危険と思われる場所や要望事項があるか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

おはようございます。

お答えいたします。

今回の八街市の事故については、当市でも教育委員会として大変重く受け止めております。これまでも定期的に通学路の点検等は行ってきたわけですが、今回の事故の特徴を受けまして、小学校14か校において、まず見通しのよい道路や幹線道路の抜け道になっている道路、つまり車の速度が上がりやすいところ、あるいは大型車が侵入しやすい箇所、多い箇所、そういったところの新しい観点を付け加えながら点検を夏休み中、夏季休業中を使いまして各校で調査を行っていただいているところであります。現在、学校から調査の実施を受けて、今結果を集約しているところであります。今後、関係機関等との連携をしながら、合同点検を行う予定であります。現在64か所、危険箇所として上がってきております。今後また、集約を進める上で箇所も増えてくるのではないかなというふうに考えておりますが、その点検を行いながら関係各課に、道路管理者のほうにも対応を呼びかけていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ありがとうございます。事故が発生してからでは遅いので、今も64か所ということで、優先順位をつけて、早急に前向きに改善するよう要望します。

続きまして、（2）幼稚園・保育園や小・中学校の防犯カメラは全てついてるということを伺いましたが、防犯カメラを設置された経緯、また目的をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

目的・背景につきましては、全国で児童や園児が犠牲になる痛ましい事件、また事故がありまして、そのたびに子供を見守ることの重要性が言われているところであります。

そういった中で、せめて園・学校内でそういった事案が起きないように、施設への侵入事案などの犯罪を抑止する意味でも、園児・児童を守るために園・学校に防犯カメラを設置しているものがあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

設置するに当たって死角がないように、また、そういったところも点検するように、カメラをつけたよというだけで、またその実績を見ないということがまたありますので、都度点検をしていただきたいと思います。

2018年5月、新潟市で下校途中の女子児童が殺害されるという事件を受け、政府は登下校中の児童の安全を確保するために登下校防犯プランを取りまとめ、地域の連帯強化の活性化、子供の危険回避対策の促進という5つの柱の下、それぞれについて担当省庁が中心となって取りまとめています。登下校防犯プランの中で、防犯カメラは登下校をする児童が通る道の環境整備・改善のために活用できるとされています。登下校をする児童は、集団から離れた後の1人区間や学区内で、大人の目が届きにくい見守りの空白地帯という登下校路の危険箇所において、特に犯罪被害に遭うリスクが高まります。登下校路の危険箇所を的確に把握し、防犯カメラを設置することで学区の安全を強化するものとしております。糸魚川市では、どのように登下校防犯カメラ設置についてお考えか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

お答えいたします。

議員おっしゃった国のプランもありますし、児童生徒等の安全確保についての文部科学省からの

依頼や通知に基づきまして、これまで市としても対応を進めてまいりました。

先ほど磯野課長が申し上げたとおり全国での悲惨な事件・事故が、その後も発生しているということ踏まえながら、動く防犯カメラとしてのドライブレコーダーとのすみ分けも図りながら、必要な場所へ設置するよう進めているところであります。

また、防犯カメラやドライブレコーダーに限らず、児童生徒への日頃の指導ですとか保護者や地域、関係機関との連携強化、これも大変重要なことと思っておりますので、それらも合わせて、児童生徒の安全確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

今年4月の広報いといがわのおしらせばんにおいて、防犯カメラ設置補助金の申込みが掲載されておりました。この補助金の事業の目的と、いつから始まり、何件の申込みがあったか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

この事業の目的でありますけれども、市民の安全で安心な生活の確保、犯罪の未然防止のために令和元年度からの事業であります。これまでに8件の交付決定をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

子供は地域の宝です。自治会や企業、店舗等で地域の宝である子供を守る活動として、市から防犯カメラ設置を、市が参加している各団体を活用して、お願いすることはできるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

現在、防犯の関係では、防犯組合連合会がございます。そちらの加盟団体、また、議員のおっしゃるとおり関係機関・団体にも、今後またしっかりとその目的、設置目的等をお伝えしながら、趣旨の同意を頂きながら動いていきたい。また、制度の周知にしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

続いて、ドライブレコーダーについて。今年4月の広報いといがわのおしらせばんにおいて、ドライブレコーダー設置促進事業の助成金の申込みが掲載されてました。この補助金事業の目的と基本的な考えは何か、また、いつから始まり、これの申込み状況を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

お答えします。

市民の安全運転意識の向上及び犯罪の抑止を図ることを目的としまして、ドライブレコーダーの普及を促進されるものであります。

令和2年度からの事業で、これまで1,369台に対して交付してございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

市所有の車には、ドライブレコーダーは全部ついてるよという、先ほど市長のご回答だったんですが、これもまた、市の委託者については、どのようになっているかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

いわゆる委託者、特に特殊車両になりますが、除雪車関係になりますと、やはりついてないものもたくさんございます。ですので、業者持ちの車もございますが、今後、設置に向けて検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

そのようにされることを要望しますが、また、市職員の車通勤において、申請用紙に自賠責保険のほかに任意保険の加入も義務付けされてると思いますが、今後、ドライブレコーダー設置も条件の一つに加えるべきと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

やはりドライブレコーダーの設置は、運転者の交通違反や交通事故の抑止につながる効果もあると思っておりますので、条件に加えるように検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ありがとうございます。先ほどからドライブレコーダー、防犯カメラ、お答えしていただいているんですが、ドライブレコーダー設置事業の中に、地域の見守り協力者ステッカー交付申請書というものがあります。その書面の上段に、糸魚川市が推進する安全・安心なまちづくりの取組に協力し、ドライブレコーダーを活用した見守り活動を行うと書かれていましたが、この団体は、市が事務局となっている糸魚川市防犯組合連合会です。ぜひ市が先頭となって牽引して、ドライブレコーダー、また、防犯カメラといったところを牽引してほしいと要望します。

続きまして、3番目の糸魚川産木材についてです。糸魚川市内は、製材業者がどのように推移してきたか、ピーク時から現在に至るまでの業者数と、そこで働く従業員数を把握しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

糸魚川木材連合会にお聞きしたところ、昭和50年代は、名立の業者を含んだ数で46社、平成8年は30社でございました。市町村合併によりまして、名立の業者が抜けた平成19年は18社、今現在は5社となっております。

従業員数につきましては、過去の推移は分かりませんが、現在は40名弱とお聞きしております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

製材業者は、コスト削減や労働者の作業軽減のために機械の更新、自動化等の設備投資を行ってきましたが、体力のない製材業者が廃業されてると思います。糸魚川市は、これまで製材業者の支援は、どのように行ってきたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

設備投資につきましては、県の補助事業に市もつけ足し補助を行っておるところでございます。

また、ふるさとの木の家づくり事業によりまして、住宅や店舗の建築に係ります地場産材の購入に対し助成を行い、地場産材の普及、利用の促進を図っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ありがとうございます。市民の考えでは、地元産木材は高く、大手メーカーで取り扱う外来材は安いと感覚で思っています。地元産木材を使用した場合に住宅、店舗等への補助制度を利用することで同等レベルの価格になることが、まだまだ理解されておられません。市民へのアピールを強化するために糸魚川市も糸魚川木材連合会と連携を組み、進める考えはあるでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

ふるさとの木の家づくり事業につきましては、糸魚川木材連合会のほか、森林組合、建築組合連合会、そして、県及び市を構成員とします協議会組織が実施主体となり、事業実施をしております。

市民周知につきましては、SNSを活用した情報発信や施主及び工務店さんのご理解をいただく中で建築見学会の開催、建築現場への地場産材PR用メッシュシートなどの設置、また、建物の内部をホームページ等で紹介させていただくなど、地場産材の活用と制度の周知に努めているところでございます。今後もより一層、関係団体と連携しまして、取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

ありがとうございます。常にそういった団体と連携を組み、問題解決に向かってほしいと要望します。

現在、糸魚川市において、山林、農地、水路などの自然環境の荒廃が見られ、里地里山システムの崩壊が問題視されています。当糸魚川市の面積の87%が森林という環境下において、里地里山システムの改善に向けた取組を、今後、糸魚川市はどのように考えてるか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

農業の面では、町なかなどの一部地域を除いたほぼ全域におきまして、農家の皆さんが中山間地域等直接支払制度などを活用した農用地の維持・管理活動に取り組んでおられます。これらの取組

によりまして、農地・農村の持つ多面的な機能の保全につながることから、今後も継続してまいりたいと考えております。

また、林業の面では、森林経営管理制度の推進や地場産材の利用拡大を図ることによりまして、森林環境の整備につながるものと考えております。特に地場産材の利用拡大につきましては、川上から川下までの林業関係者が現状認識を共有しまして、経済の地域内循環の仕組みづくりに自ら取り組むことが重要と考えておまして、現在進められております3Mの取組に、今後も連携・協力してまいりまいたいというふうと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

近藤議員。

○16番（近藤新二君）

農作放棄地などでは、竹類の侵入、ごみ投棄、また、国土保全機能の低下による災害発生、水源涵養機能の低下などがあります。

また、近年では、鳥獣問題もいろいろ問題視されてます。この里地里山システムの改善をぜひ市が率先して取り組むよう要望して、私の一般質問とさせていただきます。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、近藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○5番（中村 実君）

先ほどハッピーコーディネーター6名で29人の成婚の実績があったということですが、29人は分かったんですけど、これ年に何名とかという数は分かりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

平成19年度から始まっているんですが、やはり年によってもばらつきはあるんですが、やっぱり一番多いときは年4件ぐらいです。少ないときは、やっぱり1件という状況になっております。大体23年、24年、25年が、大体4件で推移をしているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○5番（中村 実君）

いろいろな取組をしているということですが、やはり地元をよく知っているハッピーコーディネ

一ター、先ほどだと6名ですよ。これをもう少し増やしていく必要があるかというふうに思うんです。なかなかこれ、結びついた後に、たしか8万円でしたか幾らでしたかあると思うんですけど。もう少し報奨金というんですか、これ何ですかね、これを上げる必要があると思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

謝礼につきましては、成功1件で8万8,000円になっています。たしか私も当時、企画財政課のときにこのお話が、直接担当はしてなかったんですが、何で8万8,000円なんだという形であったんですが、末広がりというような形で決めたというふうなのがございますので、こちら辺が価格が適正なのかどうかというところは、ほかの他市の状況ですとか、状況を見る中で、もっと研究はさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○5番（中村 実君）

金額的には、上げるって10万、15万というわけにはいかないと思うんですけど、ただ、これはまず、相手を合わせなきゃいけない。昔ならうちへ呼んで、お茶飲みながらという話もあったんでしょうけど、今はほとんどどっかの飲み屋さんかなんかで、まず1回目は会うということなんです。話合い、少しずつお酒を飲みながら話合いをして、気持ちを確かめていくということだと思います。たしかそういうものにお金は使っちゃいけないということだと思いますけど、その辺はどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに成婚1件につき、謝礼という形で8万8,000円なんですけど、今、議員が言われたような、やっぱりそこまで行くまでのプロセスでも、やはり本当にお金がかかっているというのは承知しております。今のところは、そういったところへの経費の用途については、定めておりません。コーディネーターさんも本当に精神的なボランティアで何とかしたいというお気持ちでやっていただいていると思うんですが、この仕組みも平成19年度から進めてまいっております。事業のほうも、もう一度再構築する中で、適正な経費の在り方ですとか、どういった人がいるのか、そこら辺はやっぱりコーディネーターさんの意見を聴きながら進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○5番（中村 実君）

結婚支援ということですので、少しはそういうところにも目を向ける必要もあるかなというふうに思いますし。

それともう一点、何度か言わせていただいているんですけど、議員はこの中に入れないということなんですよね。要は謝礼をもらえないという、違反になるという。その謝礼は要らないんだということになると、それもまた違反になるということなんですけど、その辺をもう少し改めて、謝礼が欲しいという話じゃないんですよね。議員というのは、やはりいろんな人との付き合いがあるので、結婚支援については、結構いい情報を持ってると思うんですよ。やはりそういう人たちがもう少しコーディネーターと関われるような体制づくりをしっかりとしていかないと、実績も伸びないんじゃないかなというふうに思うんですけど、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに議員のお立場というところ、いろいろ縛りもございますので、それは十分承知いたしております。

ただ、本当にこういう糸魚川市の発展に寄与していただきたいというお気持ちは、非常に理解いたしたいと思います。何らかの形で、コーディネーターさんと、うまく側面的に支えていただくような、いろんな情報を頂けるような、そこら辺の取組も重要視してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○5番（中村 実君）

昔は、世話焼きおじさんとか世話焼きおばさんとかというのがいて、いろんな人たちを、組合せを合わせたりということがあったんですけど、今もうそういう時代ではなくなってきた。やはり今、議員が18人いるわけですから、この18人を使って、もう少し情報を集められるような仕組みづくりをしっかりとやっていただければ、もう少し実績も伸びてくるのではないかなというふうに思いますので、その辺を要望いたしまして、終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

ここで暫時休憩いたします。再開を11時といたします。

〈午前10時48分 休憩〉

〈午前11時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。



次に、利根川 正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。〔1番 利根川 正君登壇〕

○1番（利根川 正君）

みらい創造クラブ、利根川 正です。

3つの質問をお願いします。

1、地域農業のみらいについて。

糸魚川市の農業は、経営規模が小さく稲作を中心とした兼業農家が多く、機械の導入、水田の維持にコストがかかり、農業従事者の減少や高齢化が進んでおり、農業所得の向上、担い手の確保と育成を地域全体で支える農業の構築が課題となっています。

今回、8月に開催された、地域農業みらい会議において、糸魚川の6地区に参加させていただきました。

地域農業を将来にわたって維持するための話合いで、いろいろな意見を聴くことができましたが、会議で若い方の参加が少なかったことが残念でした。

(1) 就農希望者が必ず就農を実現できるよう、研修から就農自立までの一貫した支援体制の構築が必要と思いますが、市の考えを伺います。

(2) 稼げる農業の仕組みづくりで、休耕田を利用して園芸、花の活用、農業機械の共同化など地域全体で稼ぐ仕組みをプロジェクトとして進めてはどうかと思いますが、市の考えを伺います。

(3) 集落営農組織、大規模農家の法人化を進めてもらい、同時に地域の農地を中間管理機構でまとめてもらい、それを活用して、法人に貸し出すことを進められないか伺います。

(4) 企業の農業促進ということで、地元建設会社の参入がありますが、多様な業種にリース方式で耕作放棄地を貸し出すことができないか伺います。

(5) 一般コシヒカリのJA仮渡金が、20年度産比較で1,800円減少したことについて、予想を超える減額幅をどう受け止めたか伺います。

2、森林管理と木材加工の現状について。

糸魚川市は、市域の87%が森林資源となる山林で構成され、県内でも有数の森林保有自治体ですが、間伐も進んでおらず森林の高齢化が進んでいる状態です。また、小規模製材工場も厳しい態勢で弱体化しています。

しかし、昨年度からのウッドショックを好機と捉え、ウッドチャンスに変えていく具体的な事業展開が求められています。

(1) 地元材を優先利用していく方策等があれば伺います。

(2) 小規模製材工場5社は、近年まで地元木材価格の下落により厳しい現状で、生産、売上アップを前提とした補助制度の活用は難しい状況ですが、これら製材工場に対しての支援等の考えがあるか伺います。

(3) 山林所有者の申出により、森林環境譲与税を活用した伐採が進められないか伺います。

(4) 原木搬出に大型トラックでの木材運搬をしていますが、林道等には傷みがひどい箇所があ

ります。林道整備事業で、定期的に整備、改修をしているか伺います。

### 3、GIGAスクールいといがわについて。

小学校、中学校は、生涯学び続けるための基礎スキルを身に付け、聞く、読む、書くことと、計画を立て準備し、協力、集中、実行して学ぶところであります。

多岐にわたって発達段階に応じて学力を伸ばしていき、卒業時には生涯学び続ける力が備わると考えます。

今回、ICT（情報通信技術）を活用した学校教育で、紙の教科書の内容をタブレット端末などに取り込んだ、デジタル教科書がスタートする予定であります。ICTの活用により、多様化、複雑化する社会のニーズに対応する力を育成する取組だと理解していますが、導入によるメリットと課題について、以下の項目を伺います。

- (1) タブレットのメリットは、どのようなものがあるか伺います。
- (2) タブレットの利用で学習効果は上がっているか伺います。
- (3) 視力の悪化など検証をしているか伺います。
- (4) 低学年で想定外の事態が起きていないか伺います。
- (5) 通信環境のない家庭もあり、この対応はできているか伺います。
- (6) デジタル教科書が来年度スタートですが、文字や図の拡大ができ、障害がある児童生徒の学習に効果があると聞いています。そこで特別支援学校、学級での利用を考えているか伺います。
- (7) 令和2年7月の学校職員業務見直しの改善状況について伺います。
- (8) 小中学校夏休み後の新型コロナウイルス感染症対策の実施状況について伺います。

以上、質問の内容です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

利根川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、経営が安定するまでの間、国が支援する制度があるほか、市においても関係機関とともに個々の課題への支援も実施いたしております。

2点目につきましては、既に園芸等に取り組んでおられる地区もあることから、これらの取組を検証し、周知してまいります。

3点目につきましては、地域の話合いに基づく農地の利用調整が重要であり、市も関係機関と連携し、支援を行っております。

4点目につきましては、一定要件を満たした場合は、農地を借りることは可能となっております。

5点目につきましては、農業経営の影響だけではなく、今後の経営意欲の低下にもつながるものではないかと懸念いたしております。

2番目の1点目につきましては、木造住宅等への助成、木製品の商品開発への支援など、地場産材の利用促進を図っております。

2点目につきましては、地場産材の需要拡大に向けた取組や林業及び地域の活性化につながる新

たな取組に対し、支援してまいります。

3点目につきましては、山林所有者の申出による個別対応は難しいと考えております。

4点目につきましては、林業事業体の森林整備に合わせ、計画的に林道整備を進めております。

3番目のご質問によりましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

利根川議員の3番目のご質問にお答えいたします。

1点目と2点目につきましては、画面を触って感覚的に操作できることがメリットであり、1人に1台ずつ配備していることから、どの子も自分の学びが保障されており、特に学習意欲の向上が図られております。

3点目につきましては、視力低下などが起きないように、30分に1回以上の休憩を取るよう指導しております。また、これまでと同様に、視力検査を定期的に行っております。

4点目につきましては、特に大きな問題は起きていませんが、低学年に限らず学年に応じたルールによる使い方の指導を行うとともに、管理システムによる一括管理により、使用状況を把握しております。

5点目につきましては、各家庭に通信環境を整えるようお願いしており、要保護家庭等には、これまでの就学援助金に通信費の一部を上乗せして支給しております。

6点目につきましては、デジタル教科書は現在教師用として、国語、算数、数学、英語など各校が希望する教科書を採用しており、教科によっては、特別支援学級でも同様に活用しております。今後の国のデジタル教科書導入の動向を注視しながら、適切に対応してまいります。

7点目につきましては、各校での様々な課題解決に向けた取組により、職員一人一人が徐々に自分のタイムマネジメントについて考え、業務改善を行っていることを把握していますが、小学校では行事前、学期末の繁忙期、中学校では、それに加えて部活動の大会前などに超過勤務等が多いという課題は残っています。

しかしながら、ICTの利活用を進めるなど徐々に業務改善を進めてまいります。

8点目につきましては、マスクの着用、手指消毒、換気などの基本的な感染防止対策を継続するとともに、検温と日々の健康管理と再度徹底し、体調不良の場合には、無理に登校させないなどの措置を取っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

2回目の質問をお願いいたします。

まず、農業について、今回の地域みらい会議の目的は、地域農業を将来にわたって維持する話合いで、各地域農業者、関係機関が集まり、開催されました。地域の現状を把握し、将来にわたって地域の誰が担っていくか、誰が農地を集積・集約していくか、人農地プランの実質化について話しました。

(1) 番の就農希望者の体制について質問します。

2019年度の農業の新規従事者は4名、林業が2名、漁業が2名の方が就職しています。若い人に農業の魅力は何か聞くと、糸魚川では、米作りでは稼げない、米価の状況が厳しいため不安、夢が持てないと言います。農業従事者の1,460名余り、そのうち65歳以上は1,150名、78%の割合で高齢化している現状で、新たに若い就農希望者、また、定年退職者も含めて担い手育成事業などを用い、農業を実現できるように支援体制がつかれないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

一定の要件を満たした場合に、新規就農希望者に対しまして、就農前の研修期間においては最長2年間、農業を始めてから経営が安定するまでの間は、最長5年間、国が最大年150万円を支援する制度がありまして、当市においても受給されてる方がおられます。

また、市としましても関係機関とともに、担い手ケース会議を毎月開催しまして、農業者個々の課題への対応も実施していることから、ある程度の支援体制は構築できていると考えております。

就農希望者にとって、所得の確保はもちろん一番大事なことではありますが、農業の魅力というのは、それだけではないと思います。地域のベテラン農家の方から、農業の魅力やご自身の経験を伝えていただくなど、ぜひ地域の皆様からも支援をお願いしたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

今年度、担い手育成事業の予算も昨年より多くなっておりますので、ぜひ支援体制のほうをお願いしたいと思います。

続きまして2番、稼げる農業の仕組みづくりについて、新規経営支援事業など休耕田を利用して、園芸作物、花などを機械を使い、地域全体で作物を作る仕組みづくり、集落にお金が落ちる雇用を生む取組をプロジェクトとして立ち上げられないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

市内におきましては、遊休農地を活用した山菜園を開設したり、高齢者が集まって、食彩館に出荷する野菜を栽培している地区などがございます。

また、休耕田ではありませんが、県営の圃場整備事業を実施している地区におきましては、実施区域の一部において、園芸にも取り組むこととされておりまして、中心となって取り組む担い手の方を中山間直払いの集落協定組織が積極的に支援しているという地区もございます。

市内においても、このような様々な事例がありますことから、プロジェクトではなく、モデルとして広く市民の方に、また農家の方に周知を図ってまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

そのようなモデルを市民の皆さんに分かるように伝えてもらいたいと思います。

続きまして、3番目、農地集積・集約化対策事業で、県平均の半分ほどで糸魚川市は集約が進んでいません。山地が多く、大型機械が使えないなど条件面で違いがありますが、今回の農地中間管理機構では、農地を貸したい、出し手が、自ら農地を借りたい受け手を見つけて初めて中間管理機構に届ける仕組みで、自ら受け手を見つけるのが大変厳しい状況です。両方をうまくマッチングする仕組みを考えてもらいたいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

農地中間管理機構は、県全体の組織でありまして、個々の現場に入っただけの利用調整というのは困難というふうに考えております。地域の話合いに基づきます農地の利用調整というものが重要でありまして、また、様々な情報は地域にあることから、農業委員や農地利用最適化推進委員、また、中山間の直払いの役員さんなどに入ってもらいながら利用調整を進める形で、今後も進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次に、集落営農組織、また、大規模農家の法人化を一步前へ進めるために説明会などを考えてもらいたいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

以前、地域農業懇談会におきまして、市内の事例を基に法人化等の説明をさせていただいたことがありましたが、あまりちょっと反応が薄かったというのが正直なところでございます。

ただ、議員おっしゃいますように、担い手確保の観点からも組織化、法人化は必要と考えておりますので、検討してみたい、あるいは話を聞いてみたいという場合は、ぜひお気軽にお声をかけていただきたいと思っております。関係機関とともに対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひよろしく申し上げます。

（４）番、企業の農業促進について。こちらは例としてですが、山梨県北杜市が成功している事例で、中間管理事業などを通じて、企業に１０年間、農地を貸し出し、栽培計画、資金計画を確認、農地整理員を配置して、支援する仕組みです。企業のSDGsに貢献につながる仕組みで、最近、関心が高まっております。次いで、林野、耕作放棄地を多様な企業、例えば商社、食品メーカー、また、スーパーなどに１０年間リース方式で貸し出し、企業で野菜、果実、薬草栽培や、また、太陽光発電等に貸し出すもので、この仕組みを糸魚川でも進められないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

一般企業の農業参入に当たりましては、農業に常時従事する役員等の確保や適切な営農計画の作成など、一定要件を満たした場合には農地を借りることも可能となっております。

また、太陽光発電や水力発電等につきましても、農振除外ですとか農地転用手続などの許可があれば可能となっております。

議員からご提案のありました北杜市さんのほうの取組状況というの、ちょっと調査研究してみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

山梨県北杜市の成功事例を、ぜひ参考にしてもらいたいと思っております。企業で借りるため、かなり農地も貸し出しできるということで期待できるんじゃないかと思っております。よろしく申し上げます。

５番目、今年度の仮渡金について。新潟県の２１年度産米の作柄状況では、作況指数９９から１０１の平均並みの見込みで見ましても稲も倒れてなく、豊作の予想です。米のJA仮渡金が７年

ぶりに低水準で、新型コロナウイルスの感染症で消費のバランスが崩れているということもあります。60キロ当たりで、令和元年度は1万4,900円から2年度1万4,000円の900円の減、また今年3年度は1万2,200円の1,800円の減収となる見込みで、在庫も同期で1割増増えております。減額は予想してましたが、予想以上で、今後、生産者の経営を取り巻く環境は厳しく、農業から離れる人はさらに多くなると考えます。

過去に、平成14年の水準1万2,000円まで下がったときには、作り手がいなくなった農地が一気に出たときもあります。今後、来期に向けて対策を考えなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

市としましては、昨年度からインターネット販売に対する支援や飼料米への作付転換の促進など、関係機関とともに対策を取ってまいりましたが、業務用米を中心とした全国的な需要の落ち込みにより、大幅な米価下落となり、経営への影響、そして営農意欲の低下を深く懸念しているところでございます。品質向上や収量の確保、スマート農業や園芸の促進、また、収入保険等への加入促進など、関係機関と連携して、早急に対応を、検討を実施してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ来期に向けて、早めの対策をお願いしたいと思います。

ここで、農業会議の中で高齢者の方からご相談がありましたが、高齢化のため30キロの米袋、また肥料袋を持ってないという多くの高齢者から聞きました。今後、20キロの米袋にして、女性でも持てる重さに変えていく方向で、JAの方々も含め検討できないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

JAひすいを通じまして、全農にいがたにお聞きしたところ、米の卸売業者において20キロの米袋の需要がないことから、対応が難しいという回答でございました。

ただ、全農にいがた及びJAひすいにおきましても、将来的な課題として認識しているということでもございましたので、市としても機会を捉えて要望してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ要望のほうをお願いしたいと思います。

続いて、2番目、森林管理と木材確保について、お伺いします。

（1）地元材の利用で糸魚川市の杉など人工林9,800ヘクタールは、45年から90年前に植林されたもので、50年サイクルが森林整備のベストで、糸魚川の森林を荒れたままにしておくことは、大きな災害につながる可能性が大きいと思います。今、需要がある追い風のときに具体的な事業転換が必要と思われます。地元材の切り出し、増産体制を強化していく方法として、森林組合と建設会社の方々、また、電力会社の線下伐採等に連携して、協力して出荷を進めることができないか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

森林組合におきましては、以前から市内建設会社や他市の伐採業者と連携して森林整備を実施しておりまして、ウッドショック後は、さらに連携の強化をしているというふうに聞いております。

ただ、そのような状況は全国的なものでありまして、これ以上の連携強化は難しいともお聞きしているところでございます。

また、電力会社の線下伐採で出ました材を活用するとなりますと、新たに搬出するための道路が必要になることから、コスト・時間の両面から難しいのではないかと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ森林組合と建設会社の方でよろしくをお願いしたいと思います。

続きまして、近年、家庭用のエネルギーとして、まきストーブの需要が多くなり、地元材活用として、まき、ペレット、木材加工品、木育のおもちゃの販売など、小規模木製製品の開発の展示場、また、子供が遊べる場など、民間を入れて糸魚川市に作れないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕



○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

展示場につきましては、常設という形ではなく、イベント等、様々な機会を捉えまして、それぞれのターゲットに応じた形で対応してまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひイベント等、数多くやってもらいたいと思います。

次、（2）木材流通の川中に当たる製材工場が厳しい現状で、5社、先ほど近藤議員も質問しましたが、従業員が40名ほどということで、生産体制など今まで縮小していましたが、近年いきなりの木材の需要に増産体制が厳しく、こちらに新たな使い勝手のいい支援がないか、お伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えします。

川中だけでなく、川上に当たる森林組合においても同様の状態でありまして、ウッドショックがいつまで続くか分からないため、設備投資や新たな雇用に踏み切れないとお聞きしております。使い勝手のいい支援というのが、具体的にどういうことか、ちょっと分かりかねるところもあるんですが、仮にウッドショックを契機に、事業の拡大を図るため設備投資をしたいというお話であれば、どのような支援が可能か検討してまいりたいというふうに思います。

また、地場産材の需要拡大への支援ということであれば、支援の効果が川中だけでなく、川上、川下にも及ぶことから、現制度を検証し、必要に応じて拡充、新設してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ検討のほう、お願いしたいと思います。

3番目、糸魚川市の山林所有者は、小規模な地主が多く、6年前の統計で1から3ヘクタールの所有者が74%です。家の裏山の杉が伐採時期を迎え、大きくなり過ぎて危険な状態を見かけます。地場型森林活動や地域の住民自らの山林管理では、限界もあり、地主も高齢化しています。令和元年度のスタートの森林環境譲与税を活用したよい方策がないか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

森林環境譲与税、公金である以上、公共性があるかどうかということが重要になってくるかと思  
います。今、住宅の裏山のということでしたが、それが公共性があるのかどうかという判断になる  
かと思えますし、また、執行に当たっては、面的な集約による効率化も重要なことから、個別の対  
応というのは難しいのではないかと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次、4番目の伐採のため林道を大型車両で乗り入れる際、道路環境が悪く、今の車両ですと道路  
幅4.5メートルほど必要で、今後、伐採現場まで林道専用道の整備、造林作業道路整備補修の事  
業等を考えてもらいたいが、いかがでしょうかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

当市におきましては、急峻な地形かつ地滑り地帯が多いことから、毎年、林道の修繕が欠かせな  
い状況となっております。

また、年数とともに、規格が合わなくなっている林道等もありますことから、森林組合と協議の  
上、現場の状況を確認しながら森林整備計画に沿って整備を進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

では、森林の最後なんですが、こちら今後、冬の時期を迎えますが、山間部の道路脇で積雪のた  
め倒木が起きないように、あらかじめ見回り、また、地権者と話し合いで、伐採のほうをよろしくお願  
いしたいと思います。

続きまして、GIGAスクールいといがわについて。（1）タブレットのメリットについて、課  
題を持ち帰ること、休校時、リモート学習できることなど利用は多くありますが、まずは慣れるこ  
とです。

この夏休み新潟市では、小学生、中学生にタブレットを家庭に持ち帰って使ってもらったと教育  
委員会の方に確認しております。いろんな場面で、必要なときに手軽に使えるICTですが、糸魚  
川市でも条件を整え、この冬休みまで持ち帰ることができるでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

現在、長期の休校を余儀なくされる場合、あるいは次の長期休業である冬休みに備えて、持ち帰りが可能なように準備を進めているところであります。現在のところでは、身体的な事情とか、あるいはコロナウイルス関連での事情で、やむを得ず欠席せざるを得ない子供たちについて、保護者からの申請に基づきまして、家庭への持ち帰りを認め、また、W i - F i 等でのオンラインもできるような形で行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

2番目の質問をお願いします。

学習効果の面で判断は難しいと思いますが、教職員の方々の手応えはあるでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

まだ1学期の4か月利用したというふうなことで、職員についての確実な手応えというものについては、十分な捉えはできておらないんですけども、やっぱり職員にとっては、何といたってもメリットは、モニターにタブレットを接続して、手軽に素早く、そして分かりやすく授業に活用ができるというふうなことで、好評であるというふう聞いております。

糸魚川市では、教職員一人一人にタブレットのほうを貸与しまして、子供たちに先んじて、家に持ち帰っても研修ができるようにというふうなことで、自主研修ができるように、そのような体制を取っておりますので、職員のほうも教材作製だとか、あるいは活用の方法について、自主研修を高めながら2学期に備えてきております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

今ほど富永課長が説明しましたが、ちょっと補足させてください。

学習効果というふうな面のご質問だと思いますが、1学期を経て、徐々に慣れて、そして今、指導する担任は、教師は、どの単元、その前にどの教科のどの単元、どういう指導内容で効果があるかないか、そこら辺りの、実際使ってみて、そして、子供の反応を見ながら、記録を取りながら時

間を進めています。ですから、2学期辺りから徐々に効果が現れる場面、どういう場面なのかということの情報交換が、各学校ごとに行われながら、糸魚川市としては、どの教科のどの単元で、どこを重点的に使っていくのかという方向が見えてくるだろうというふうに思っています。徐々に徐々に使いながら、子供も教師もお互いに効果がある場面で積極的に使っていくという方向が、今探っている最中ですので、経過をぜひ見ていただきながらご支援いただきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次です。5番目に行きますが、昨日の新聞で、公立の小中学校や特別支援学校約3万校のうち、64.3%が災害時、非常時に備え、端末を自宅に持ち帰れるように準備済みということです。また、平常時で持ち帰りは25.3%でした。

糸魚川市では、通信環境のない家庭での対応は完了しているでしょうか。また、今後、新型コロナウイルス感染症対策で休校になる可能性が大きいです。環境格差のないように対応しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

有事に備えまして通信環境の整備については、各家庭にお願いしているところなんですけれども、要保護世帯につきましては、通信環境の整備あるいは維持の補助として、年間約1万円ほどの援助額を上乗せしております。

昨年の調べでは、未整備家庭がおよそ12%ほどございましたけれども、この春の調べでは、それが7%になっております。5%ほど整備が進んでいる、向上しているというふうに見てとれます。これからも啓発、支援、その両面から対応を進めていきたいと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ環境格差がないように対応のほうをお願いしたいと思います。

続きまして、(6) デジタル教科書が一部スタートしていますが、24年度本格導入する予定で、糸魚川市ではデジタル教科書を導入するのか、また一部教科書を残すのか、また、問題点は何かあるか、お聞きかせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

市独自としましては、教育長の説明がありましたけれども、教師用のデジタル教科書のほうを一部の教科で導入をしております。今後もそのつもりで進めていきたいというふうに考えております。

2024年には、小学校の新しい教科書が改訂されます。国としては、まだ方針のほうが十分定まっておらず、デジタル教科書を子供たちに配付するのか、それとも現在の紙の教科書を配付する、それを継続するのか、あるいは両方なのか。予算的な面もありますので、これは国の動向を注視しながら、また、市としても対応を検討し、進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

デジタル教科書をぜひお願いしたいと思います。特に、特別支援学校、またその学級での使い勝手がいいということも聞いておりますので、進めてもらいたいと思います。よろしく申し上げます。

次、確認なんです、ICT支援員は、今何人いるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

現在4名で、各学校を分担しながら計画的に支援に回っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

予定の4名ということですね、確認いたしました。

次、7番目、これ関連のあれなんです、昨年7月の学校職員の業務見直しについて、家庭に回覧した文書について、お伺いします。

その主な内容を読み上げさせていただきますが、学校では、新型コロナウイルス感染症防止や子供に対するきめ細かな指導・支援、登下校の安心・安全の確保など、様々な課題の解決に向け、現在努力を続けているところです。学校職員の業務の中心は、子供と向き合い、授業改善や学級づくりに取り組むことです。学校では、業務量が増加する中でも丁寧な対応に心がけながら、業務がおろそかにならないよう努めています。教育委員会で把握する学校職員の超過勤務は、様々な努力によって減少しつつありますが、依然深刻な状況にあり、教職員の多忙化は解消されていません。

そこで、職員が本来の業務にゆとりを持って専念できるように保護者や地域の皆様に、より理解

いただきながら、以下のとおり学校職員の業務の見直しを進めてまいります

そこで、1番なのですが、学校行事、それに関する諸活動、部活動等の実施時間の見直しは、行われたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

市としましては、糸魚川市の学校教員の勤務時間の上限に関する方針というものを出示して、それに基づきまして、業務改善を進めているところであります。今ほどの行事、それから関連する諸活動、部活動についても、コロナ禍ということもありますけれども、できる限り計画のほうを見直しながら負担感・多忙感がなくなるような形で、それでも教育の本当の目的を達成できるような方法で精選、それから効率化を図っているというところであります。部活動につきましても、県・国の補助金等を活用しながら、補助事業を活用しながら地域人材のほうを活用して、教職員の負担軽減のほうを図ろうと、今取り組んでいるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

次です。先ほど地域人材の活用とありましたが、外部のボランティア活動は行われているか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

糸魚川市では、全ての学校で学校運営協議会、コミュニティスクールを取り入れておりますし、また、生涯学習と連携しまして地域学校協働活動、学校応援隊、そういった団体を使いまして、取組を進めております。各学校においては、教育活動や、あるいは子供の安全・安心を確保するような学校運営、その中に地域人材を有効に活用しているというふうに捉えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

教職員の方々の計画的な休暇取得が促進されているか。また、時差出勤、また、在宅勤務の導入がなされているか、2点、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

子供たちに対応するというふうなことから、学校の特色としてなかなか休みを取りにくいというふうな部分があります。

ただ、やはり教職員のメンタルヘルス、そういったものからすると計画的な取得が必要であるというふうなことで、校長とも話しながら、指導しながら取得を呼びかけてるところであります。

また、時差出勤、あるいは在宅勤務につきましては、長期休業中を使いながら早出、早上がり、遅出、ちょっと遅い上がりというふうな方法を取り入れたり、在宅での業務が可能である業務について、在宅勤務を積極的に取り入れるように指導してきておりますし、各学校においては、全ての職員においてそういった在宅勤務、時差出勤などを取り入れて業務を行っているというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

部活動の顧問の先生、また、教頭先生など、残業時間が多くなると考えますが、こちらの方々、残業の範囲内に収まっているか、お伺いしたいんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

校長会等を通じまして、当該教職員の勤務時間の適正化、あるいは負担軽減、あるいは1人に偏らないような勤務時間の平準化、そういったものを指示しております。毎月報告される超過勤務の実態を注視しながら、まだまだ改善しないところも学校によってはありますので、個別に困り感などを聞きながら、サポートできるところはないか対応していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ改善のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

次、8番目の新型コロナウイルス感染症対策の状況について、お伺いします。

今までと違った広がりがありますし、11歳以下の子供が新型コロナワクチン接種ができないこともあり、この一、二週間大変な状況になっております。

医療機関の応援のように70歳以上の看護師の方で、手伝っている方もおられます。この期間を

乗り切るため、教職員の定年退職された方、養護教諭の方など応援をもらい、少しでも教職員の負担、また、子供の安心につながるようにしてもらいたいのですが、糸魚川市教育現場での現在の対策をお聞かせください。

また、緊急で必要なものはないかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

学校のほうでは、新学期早々、新しい変異株の蔓延によりまして、対応のほう、大変緊張感を持って取り組んでいるところであります。

やはり利根川議員が、お話しされましたように、こういった部分でも地域の人材、保健関係のお仕事に従事された方がOBで地域におられるようであれば、活用するというふうなところも検討していきたいというふうに考えております。

また、今学期中に子供たちの朝の検温がしやすくなるように検温器、モニター付きの体温測定の測定器のほうを各校に常備するように今準備を進めているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

こちらはちょっと昨日、父兄の方から聞かれたんですけど、家庭内での感染で親がなり、そのとき子供の対応はどのようにしていったらいいのか、前回の質問の方もあったと思うんですが、もう一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

家庭での感染者が発生した場合、子供たちが本当に困る場合が出てきます。基本的には、家庭のほうでいろいろな形で対応を工夫していただいたりというふうなことが原則かと思うんですけども、やはりこれまでもそうでしたけれども、学校は、保護者からの要望に対応してまいりましたし、教育委員会も学校からのそういった情報に基づいて、関係各課、機関等、連携しながら何らかの形で対応できないか検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

利根川議員。

○1番（利根川 正君）

ぜひ早めの対策、判断をお願いしたいと思います。



ここで、糸魚川市の新たな教育長にお尋ねしたいんですが、糸魚川市の教育についてお考えをお聞かせ願いたいんですが、よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

    お答えいたします。

    子ども一貫教育、糸魚川市独自の妊娠期から18歳までの方針、基本計画、年次計画等が示されています。ひとみ輝く子供をみんなの力でもって、地域ぐるみで育てようというふうな方針の下で今現在、進めていますので、その一層の充実、その中に子供が安心して学べ、育ち、そして、自分の夢や希望に向かってぐんぐん伸びていく。そんなふうな環境づくりに組織を挙げて、邁進してまいりたいという方針であります。

    以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    利根川議員。

○1番（利根川 正君）

    ありがとうございました。

    最後に、教育は難しく、繊細です。今、大変な環境下ですが、社会が変化していく中、家庭の単位として子育てから社会全体での子育てに変わっていく必要があります。親の共働き、放課後の居場所づくりなど、地域と学校が一体となり、総ぐるみで子育て体制をつくる必要性を強く感じました。これからも糸魚川市の教育環境がよくなるようにお願いしたいと思います。

    以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

    以上で、利根川議員の質問が終わりました。

    関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    関連質問なしと認めます。

    ここで、暫時休憩いたします。再開を1時といたします。

〈午後0時02分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

    休憩を解き会議を再開いたします。

    次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

田原 実です。よろしくお願いします。

以下、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

質問1、スムーズで安心・安全な新型コロナウイルスワクチン接種、ウィズコロナ時代の地域医療体制確保について。

- (1) 糸魚川市の新型コロナウイルス感染の現状について、特に市内感染者と感染経路の調査結果の公表、感染者の治療、入院、回復の状況報告及びテレビ等で報道されている感染拡大した場合の保健所対応や、自宅療養中の重症化など、市民の不安解消への市の取組について伺います。
- (2) 糸魚川市の新型コロナウイルスワクチン接種の状況について、8月までの接種率及び今後のワクチン接種の見込み、ワクチン供給量とスケジュール等について伺います。
- (3) デルタ株への変異とさらなる変異による感染拡大への対応について、子供たちへの感染拡大への対応について、妊婦及び家族へのワクチン接種対応について伺います。
- (4) ウィズコロナ時代の地域医療体制確保について、市内基幹病院である糸魚川総合病院と市外、県外の病院、富山大学との連携について、ウィズコロナ市民医療フォーラムの開催などについて伺います。
- (5) ウィズコロナ時代の地元での医療人材確保策について、医師・看護師育成につながる医療教育の推進について、市長が進める看護師養成学校等の設立等について伺います。

質問2、被災者住民、地区の要望が反映され、地域住民が主体的に活動し元気に生活できる、住んでいる人が主人公となる復興計画の推進について。

- (1) 市が進める駅北大火からの復興まちづくりは、被災者や地域住民に寄り添うものとなっていますか。例として買物をするところがないという住民の声は今も大きく、市長は市内全体の課題、民間業者がやるべきこととしていますが、いつまでそのままにしておくのか伺います。
- (2) 3月定例会の私の一般質問において米田市長は、「にぎわいづくりが今若い人たちも取り組んでおられます。そういったところを、また住民の皆様方にどのような形で進めていかれるかという課題も、その中で取り組んでいただければありがたいなと思いますし、行政もそういったところの中において、加わりながら対応していきたいと思っております。今の復興計画のみならず、そういった課題というものはあるわけですので、しっかりとその辺も考えながらいきたいと思っております。」と答弁していました。

行政もにぎわいづくりの役割を担うということは何となく分かるのですが、にぎわいが生まれるには、誰が、何をどのように、いつまでに進めるのか、改めて具体案、具体策を伺います。

- (3) 市が取得した旧東北電力株式会社糸魚川営業所と宮田ビルの敷地は、周辺の土地・建物と連携させて、地域住民が望む公民連携の空間として生かすと同時に、新幹線糸魚川駅から歩

いて5分の目の前は日本海という好立地を生かした空間として、活用することは誰しもが考えることだと思います。市の考える具体案を伺います。

(4) にぎわいの拠点としてつくったキターレの現状と課題について伺います。

(5) 糸魚川本町通り（旧加賀街道）のイメージ形成、雁木の街並みや優良な住環境の形成で、住んでみたい街、訪れたい街を実現する取組について伺います。

質問3、人口減少問題への対策、糸魚川市の戦略と成果について。

(1) 平成27年策定、平成30年改訂、糸魚川市総務部企画定住課編集発行「糸魚川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によれば、人口減少対策の方向性として、当市の魅力発信による定住人口の拡大、魅力発信の方法が記載されています。ここで示されているところの、市民やUIターンを希望する方が幸福感を得られる取組は実行され、成果を上げていますか、伺います。

(2) 人口減少対策の5つの戦略とはどのようなものですか。具体的に説明願います。また、ここで示されているところの、「ライフステージの見える化と5つの戦略について、市民、企業、行政などが話し合い、それぞれの役割に応じた取組を展開することで、人口減少の克服を目指します。」とする取組は実行され、成果を上げていますか、伺います。

(3) 人口維持なしには自治体の存続はあり得ません。人口減少を市長以下、副市長、市職員の皆さんはどのように捉えておられますか、伺います。

(4) 北海道夕張市の財政破綻を見れば、著しい人口流出と過大となったインフラを持ち切れずに、焼け石に水という状態の中で破綻してしまったと捉えています。そのまま糸魚川市に当てはまるものではありませんが、じわじわと状況が悪くなっているのではないかと危惧します。その対策としてファシリティマネジメントの推進が必要と考えますがいかがですか、伺います。

(5) 人口減少問題への対策、戦略を上越市、妙高市と比較したことはありますか。また、糸魚川市の戦略で秀でたものは何だとお考えですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新型コロナウイルス感染症に関する対応は、県が中心となっていて行っておりますが、市民の不安解消につながるよう、県と連携して取り組んでおります。

2点目につきましては、現在、集団接種会場と各医療機関の個別接種でワクチン接種を進めております。

8月31日現在、対象者の59.6%が2回目までの接種を完了しており、11月には希望者への接種を完了する予定であります。

3点目につきましては、ワクチン接種をすることが感染予防に有効であることを、さらに周知してまいります。

4点目につきましては、県、医師会、糸魚川総合病院、富山大学病院など、関係機関と連携し、対応いたしております。

地域医療フォーラムにつきましては、地域医療の現状を周知する機会となっております。

5点目につきましては、引き続き、関係機関と連携し、医療人材確保に取り組んでまいります。看護師養成学校の誘致・設立につきましては、関係者と実現に向け、調査してまいります。

2番目の1点目につきましては、被災者・関係者説明会、区長等との懇談会などにより、意向把握に努め、被災者の早期再建と被災地の復興に寄与したものと考えております。

また、全市的に生鮮食料品等の買物に不便を感じている方への対応といたしまして、移動販売を実施する事業者を支援しており、引き続き、情報交換を行うとともに支援してまいります。

2点目につきましては、多くの皆様と協議を重ねる中、市民がやりたいことを実践し、生き生きと暮らしていることで、町を訪れる人や関わる人が増えていく展開が必要だと考えております。

3点目につきましては、市といたしましても好立地・好条件の土地・建物だと考えており、まずは、市民の皆様の意見を聴きながら活用を考えてまいります。

4点目につきましては、市民の活動や民間企業の営利活動、中高生の学習の場など、多様な皆様からのご利用をいただいております。今後も居心地のいい場所として、多くの皆様からご利用いただけるような施設環境づくりに努めてまいります。

5点目につきましては、雁木のある町並みと様々な活動など、公民連携でエリアの復興につなげております。

3番目の1点目と2点目につきましては、人口ビジョンの人口減少対策の方向性や5つの戦略を踏まえて総合戦略を策定し、複数の事業を展開することによって基本目標の達成に向け、取り組んでおります。

3点目につきましては、総合計画の重点課題として設定しており、市の事業のほとんどが人口減少対策や人口減少社会への対応につながっているものと思っております。

4点目につきましては、公共施設等総合管理指針を策定し、施設などの適正管理に努めております。

5点目につきましては、それぞれの市で特色を生かした人口減少対策を行っており、当市では、自然資源や交通インフラの充実など、強みを生かした施策を展開いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

再質問は、順番を変えて質問の3、人口減少問題の対策からお願いします。

人口ビジョンにある市民やU I ターンを希望する方々が、幸福感を得られる取組は実行され、成果を上げているかについて。あわせて、ライフステージの見える化と5つの戦略の成果について、恐れ入りますが、企画定住課より詳しく説明願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

では、お答えいたします。

まず、まち・ひと・しごと創生、平成27年度から第1期という形で進めてまいりました。まずは、第1期の地方創生の部分につきましては、まず、相対的には移住定住に対する制度の仕組みづくりであったのかなというふうに思っております。

その中で、制度をつくる中でもやはり若年層が非常に糸魚川市は少ないということで、糸魚川のやっぱり暮らし方、楽しみ方、そういったところの情報発信、特に糸魚川へお越しいただいた方で活躍されている方を取材いたしまして、そういった方からの情報発信というのものに努めてまいりました。

そのほか若者の多様な出会いの場ですとか、つながりの場、いわゆる活動・活躍ができるという事業もくみ上げながらライフステージを考える中での取組を進めてきておりますし、また、地域の魅力を向上するという一貫としてもやっぱり住み続けられる町、自分たちが、この町が本当にいいんだという取組ができるように、地域ごと、特に公民館単位になりますが、地域が抱える課題の解決に向けた住民の皆様との自主的な活動、それと行政が連携した地域づくり活動、そういったところを進めてきたというのが、第1期であったというふうに思っております。

その結果といたしまして、今日、本日の近藤議員のご質問にもお答えいたしましたが、平成28年度は29人、平成29では36人、令和元年度では64人という形で、制度をつくったおかげで移住される方のカウントも正確にできてまいりましたし、コロナ禍ではございますけども、順調な取組に進んできたのかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

成果は上げているよということなんですけども、全体的に見たときの人口減少というのは、止まってないと思うんですけど、その辺はどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに人口の減少というのは、議員が言われたとおり確かに減少しております。合併した当時は5万ちょっと出るぐらい、今はもう4万人というところになってますので、議員のおっしゃるとおり、数の上では歯止めはかかってないというのは減少であります。

ただ、やっぱり人口の構造を見てきますと高齢化率も40%を超えている。年齢の高い層が非常に多い。やはり死亡される方が多いということが特徴的になっておりますので、その点を踏まえて、今後の取組は進めていかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今日は課題をしっかりと共有したいということで、この質問を上げました。

人口減少には、様々な策が立てられています。しかし、なかなか功を奏しません。

そこで、つい私たちは、人口減少を当たり前のものと考え、地域の活力が失われていく一番の減員を人口減少とし、特効薬はないと言い訳をするようになっていないか。

しかし、人口維持なしには、自治体の存続はあり得ません。今回の質問に際し、恐れ入りますが、糸魚川市の行政のリーダーの皆さん、それぞれのお立場からの人口減少への対応策を伺いたいと存じます。

恐れ入ります、副市長の立場からお聞かせください。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

人口減少対策なくして、市の発展あるいは市の維持はできない最重要課題だというふうに思っています。人口ビジョンの中で掲げた戦略については、それぞれの施策・事業と絡めて実施しておりますけれども、一定の成果はあるというふうに思っていますが、それで全てが解決するかというと、そういった状況にはないというふうにも捉えています。特に、私が課題だというふうに考えているのは、若者、特に女性の流出だというふうに思っています。この部分については、これからの施策の展開の中で、私自身も積極的に取り組んでまいりたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

教育長の立場から、お聞かせください。ご答弁をよろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

田原議員の質問にお答えいたします。

糸魚川市は、一貫教育の柱の中にキャリア教育というふうなものを位置づけて、小学生、中学生、高校生まで、一貫した形でもってキャリア教育充実しています。特に小学校では、職場の見学、あるいは地域のプロから直接学校に来ていただいて出前授業、たくみの技を直接学ぶというふうな部分、それから修学旅行の一環としても本物のプロから直接学ぶ、そのことを通して、将来どんなふ

うな自分の夢の設計を考えていくかという機会をつくっています。

中学校になりますというと職場見学、それから5日間の市内の事業所の職場体験というふうなもの位置づいています。そこでも直接働く人たちと一緒にあって、どういう仕事をどんなふうな思いで、どういうふうに頑張っておられるのか、働く意義や糸魚川のよさなども話してもらうように働きかけております。

特に昨年、中学校3年生がキャリアフェスティバルという大きな取組を糸魚川市で初めて立ち上げ、大きな成果を上げて終了することができました。今年も第2回目のキャリアフェスティバルに向けて実行委員会を立ち上げて、鋭意、準備を進めている最中でございます。昨年よりは今年は、事業所の皆様の協力も得られまして、多くのブースの開設に基づいて、直接生徒が市内の事業所で頑張っている人たちとのふれあいを通して、糸魚川のよさ、働くことのすばらしさ、そして、将来の設計についても直接アドバイスを頂くという機会が位置づけられています。

高等学校になりますというと、今現在、高校魅力化プロジェクトの本格的な実施が今年度から始まっています。

昨年度は、北陸大学の藤岡先生が統括指導者になっていただきまして、大がかりな市内の高等学校の調査が行われました。その調査の分析に基づいて、糸魚川市の3高等学校が、これからどういふふうな視点で改善し、見直しを図り、将来に向かってどういふふうに生徒が関わっていけばいいのかという貴重な提言も頂いております。その提言に基づきながら、特にその中でも重視しているのは、コーディネーターの設置に基づいて、地域と学校と行政とをしっかりとつないで、課題解決に向かってほしいという助言も頂いております。特にその中でも、地域の課題を地域と協働しながら、生徒が地域の課題に向かって参画する。その中でもって、本当に糸魚川の課題は何なのか考え、そして将来に向かっていく大きな方向を定めていくというふうな設置を今現在考えている最中でございます。

徐々に高校魅力化プロジェクトのほうも軌道に乗っていきますというと、より一層、地域を愛する生徒、一旦卒業しても、また入ってくる。ブーメランのようにして、また帰ってくるというふうな人と人の絆をうんと丁寧につくってあげるのが、地域協働型の活動だろうと思います。汗をかいて、地元の大人と生徒が、本気になって地域課題に解決していく。その活動を始めることによって、地域の人と高校生とがつながる。人間的につながるといふ絆を大事にしていく。そんなきっかけづくりを本年度から本格的に実施したいというふう考えています。

したがいまして、キャリア教育の充実をうんと頑張ることによって、人口減少の大きな対策の一つになるというふうには、私は考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

総務部長の立場から、お聞かせください。ご答弁をよろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

総務部といたしましては、やはり人口減少対策といたしまして、移住定住施策と関係人口の増加の取組について、着実に進めていくことが重要と考えております。

また、併せて人口減少社会に対応した財政運営についても極めて重要なことというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

産業部長の立場からお聞かせください。ご答弁をよろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

産業部としましては、やはり道路や橋りょうといった、こういった生活のインフラ、それをまず維持、効率的に効果的に維持していくということが大事になってまいります。そういったものについても、やはり仕事として成り立っていく部分があるかというふうに考えておりますし、ほかの1次から3次までの産業についても今まで培ってきた様々な技術や知識、そういったものを継承していく、そういったところが重要になってきて、そういった仕事があるよと。そういった仕事が魅力的なものだといったことが伝わるようにしていくことで、糸魚川にも非常にすばらしい仕事があるんだ。しっかり食っていけるんだ。なおかつ糸魚川が持っている豊かな自然やそういった資源、そういった中で豊かな心で暮らしていけると。そういったものを伝えられる。そういったような産業部としての政策につなげていければ、人口減への役割を果たしていけるのではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

産業部長、お尋ねします。

仕事づくり大切ですが、糸魚川の賃金が安いというその点についてはどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

基本的には、いろんな形でのそういった賃金が安いというお話もあろうかと思えます。

しかし、やはり生活の中で、要は自分として使える賃金と、やはり東京とかと比べたら賃金は安



くても糸魚川ではしっかりと豊かに暮らしていけるんだという、また水準というのは別にあるか  
と思います。賃金も上げていくような形を、産業部としては進めていかなければなりませんし、そ  
ういったところと合わせて糸魚川での生活、そういったものが成り立っていくという形、それを目  
指していかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

あと市民部長の立場からお聞かせください。ご答弁をよろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

市民部のエリアとしましては、健康づくり、あるいは福祉の充実、ごみ処理を始めた環境の充実  
といったことが範疇になるわけですが、そういった中で市民の皆様が安全で安心して生活でき  
る体制をつくっていくと。そのための施策を着実に積み上げることが大事だと思っておりますし、  
それによって住んでいる人が、住んでいてよかった。これからも住み続けたいといったまちをつく  
ることが一番大事だというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

私からは、人口減少の市財政の影響と公共施設の維持費を観点として質問を続けてまいります。

1市2町が合併して抱える数多くの公共施設の維持費や長寿命化対策には、今後、多額の経費が  
見込まれます。

一方、人口減少による市民税などの減収、地方交付税の減額で行政サービスを維持する財源確保  
ができない事態となることも懸念されます。その対応策の一つが、ファシリティマネジメントの推  
進です。

私は、2年前に千葉県佐倉市に調査に行き、報告もしましたが、ファシリティマネジメントの必  
要性と有効性について、また、糸魚川市の今後の取組について、財政課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

ファシリティマネジメントにつきまして、議員おっしゃるように、この人口減少などの社会情勢  
や財政状況から鑑みますと、大変公共施設の総合的な管理、また、財政面を含めた大きな視点で立

ったマネジメントというのは、とても必要であると認識しておりますし、重要であると認識しております。

28年3月になりますが、公共施設の総合管理指針を策定しておりますし、この3年3月にも1回見直しをさせていただいております。現在、利用状況につきましては、施設のコストなどと、あと利用状況、こちらのほうを集約しました施設カルテを作成しております、今後の施設の在り方につきましては、このカルテを活用いたしまして検証し、対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今の公共施設の維持経費を賄うとしたら、将来どれだけ公共施設の床面積を削減する必要があるかというデータを作り、議会、市民に示していくことが必要。その上で、削減削減だけではなくて、必要な施設の建て替えの際には、複合化や集約の手法を用いることにより、市民サービスが低減しないように施策を進めていくことが重要と、私は2年前の政務調査報告に所見を書きました。事前に届けてありますが、この点について企画定住課では、どう捉えていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員からファシリティマネジメントの報告書の件がということですが、まずは安易に公共施設の削減という考え方で進めていってはいけないと思います。やはりそこを利用される市民の方がいらっしゃいます。そういった利用の状況も考えなければいけませんので、単純に利用率だとか経費がかかる。単純に削減という考え方で進めてはいけないというのが、まず私の第1点です。

もう一つは、やはり複合化を進めるに当たっても住民のやっぱり合意形成というのが必要だと思うんですね。やっぱり住民との話し合いによって複合化を進める。それと同時に、やはり効率性を上げていくということと。

あともう一つは、公共施設とサービスの質を上げていく。具体的などはちょっと申し上げられませんが、サービスの向上ということにつながっていかないと、なかなか住民の皆さんにはご理解いただけないと思いますので、そういった住民の合意形成、単純な削減だけではなくて合意形成を図りながら何とか質を上げる。民間の力も、どこか公共なんですけれども取り入れて進めていく。こんな考えで進める必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今聞きたいところをみんなお答えいただきました。でもせっかくなんで、都市政策課にも伺いたいと思いますけども、同じ内容で建設を進める担当ですよね。糸魚川の地場産業は、土木建築だと

いった中で、これからの取組について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ファシリティマネジメントにつきましては、ちょっとまだ私、勉強不足で詳しくはあまり承知できないんですが、まずつくるという切り口でお話しさせていただきますと、例えば建設課長もおりますが、土木施設である場合には、まずもって安全であること。これは第一だと思います。それ以外にも、その場所に適したスペックであること。また、長く使うということを意識したということも必要かと思えます。

あと財政課長、企画定住課長もありましたけど、建設のときだけではなくて、維持管理も考慮した、いわゆるアセットマネジメントというような考え方というのが、まだ道路の商売的な活用というところまでは進んでいない地方の中小都市では、そういう考え方が今主流なのではないかなと思います。

一方、建築物に関係する、言い方は悪いですけど箱物のようなものに関しましては、今度、施設がある、その施設の種類と場所にもよるかと思いますが、今ほどのアセットの考え方に加えまして、そういう土地も含めてそういうものを資産と考えた、少し経営的な感覚というのを取り入れていくというのが今後の在り方ではないかというふうに、私は考えます。そういう意味で土地とかそういう施設、そのために公民連携という手法ですとか、議員言われとった複合化ということも、当然視野に入れていかなければいけない取組であるというふうに考えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

さて、人口減少問題の対策・戦略を上越市、妙高市と比較したことはありますか。また、糸魚川市の戦略で、秀でたものは何だと考えますか。この点、改めて詳しく企画定住課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず、上越市については、やはり上越3市で人口が非常に大きい、面積も大きいですし、中核になってまいります。

上越市は、やっぱりものづくり産業に特化した、産業分野での強力な推進というところを総合戦略の第一義に掲げているということが見えてまいります。

妙高市のほうは、まちづくりにやっぱり多様に関わってくれる。関係人口というふうに申し上げ

ましよう。関係人口の創出が、特徴であるというふうに思っております。

3点目の議員は、では糸魚川市で秀でたものは何かというところになりますが、第2期、今、総合戦略を令和2年度から取り組んでおりますが、今度は、糸魚川市としては、まず1つとして森林ですとか水資源、そういったいわゆる地域資源というふうによく答弁をいたしますけども、そういったものの活用と、あと糸魚川のライフスタイルを生かしたものの、住民にとっては日常であるものが、訪れる人によっては非日常を感じてもらえる。そういった意味でのワーケーションをはじめとした交流事業というものが、進めていきたいなというふうに思っております。

もう一つは、先ほど教育長からも答弁ございましたように、郷土愛の醸成を図るという視点で、子ども一貫教育に取り組んでおります。今では、高校の魅力化というところの視点を取り入れた点に、今動こうとしているというところであるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

上越市と比較した場合には、上越市では2つの大学、教育と看護の大学があることを人口減少問題への戦略に使えるという強みがありますね。

一方、糸魚川はどうですか。この点について、改めて教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

お答えいたします。

確かにそういう視点で大学が設置されていない糸魚川市ですけれども、人口減少に絡めまして言うと、先ほど私のほうが説明いたしました高校魅力化プロジェクト、その推進によって魅力ある高等学校が地元にあるということが徐々に浸透しますと言うと、今まで市外に進学していた生徒が、市内にとどまるようになるというふうな関係。あるいは、他市からどんどん糸魚川のほうに通う生徒がいる。あるいは籍を移して、糸魚川で学ぶ他市の子供たちが増えるというふうな効果を、私は長期的な見通しの中で期待しています。それが1点です。

それからもう一つは、糸魚川市は今までいろんな機会に努力しながら、専門の大学機関と協定を結んできています。今コロナの関係でちょっと交流・連携というふうな部分のところはストップしてまますけれども、その辺の部分をもう一回よく精査しながら、教育の分野で専門機関とのつながりがある。それで実績を上げていくというふうな部分も大いに期待していきべき内容だろうというふうに思います。長期的には、やはり専門機関の研究機関が糸魚川市にはないので、そこら辺りどういうふうな分野で、どういう規模のものが、どんなふうな条件がそろえれば設置できるのかどうなのか。そこら辺りのよく情報を収集しながら、あるいはいろんな人たちとの意見交換しながら、ぜひそういったチャンスがあるならば、あるいはチャンスをつくるように、私どももやっぱり努力しながら、教育機関の専門家を糸魚川市に設置するというような方向も、ぜひこれは夢ではないというふうに、私は思ってます。地域の熱が、どこまで高まるか。その一つの大きな起爆剤が高等学

校の魅力化だろうというふうに、私は思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

教育でも負けないぜということを確認し、理解しました。よろしくお願いします。

また、医療、出産、育児ということにおいて、上越市へ人が流れていくことで糸魚川の人口減にますます拍車がかかるのではないかということも心配します。その対策を進めないといけません。これは副市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

先ほどの私、それから教育長、各部長の答弁と重なる部分があるかもしれませんが、お答えさせていただきます。

まず、人口ビジョンに掲げる政策については、しっかり展開していきたいというふうに思っています。

それから、先ほど教育長のほうから話があったんですが、1例として申し上げますけども、キャリアフェスティバルの中で、地元の企業あるいは事業所の認知度が非常に高まってまいりました。事前と事後のアンケートを実施したんですけども、事前のアンケートでは、地元で働いてみたい、将来、働いてみたいと答えた生徒が44%だったんですけども、事後のアンケートでは81%まで伸びているという結果でございます。これは一時的なものかもしれませんが、こういったものをしっかり継続していくことと、次の課題としては、保護者の皆さんに、これはしっかり理解してもらうといった活動が必要になってくると思います。

またもう一つは、糸魚川高校におきましては、地域課題、探求の学習をやっておりますけども、この中で地域の皆さんとか市の職員が講師となって課題を拾い上げるわけですが、この中でやはり医療・福祉という問題が出てまいります。その中で、高校生が自ら考えて課題の解決に取り組むわけですが、この中で糸魚川高校の学校要覧にあったんですけども、本年3月に卒業しました160人の生徒のうち、医療系の学校に進学した方は40人ほどおられます。これは全て看護師ということではありませんが、これまで進めてきたキャリア教育ですとか、ふるさと教育の成果だというふうに思っています。

また、コロナ禍で一時的に医療職を目指すといったことがあるのかもしれませんが。こういった例をお示しする中で、先ほど私、若者・女性というふうに申し上げたんですけども、その根拠が今申し上げたことでございます。

これからも産学官、それから地域の皆さんと一緒に、取組を進めて人口減少を少しでも歯止めをかけるように進めていきたいというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

前教育長が、現教育長のことをフォローして、強く訴えていただきましたので、よろしくお願ひします。

市民部長、要は医療とか育児の環境が、上越よりも糸魚川のほうが、いま一つというような評価がある中で、糸魚川はどうしたらいいということを私聞きたかったんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川市は、上越市やほかのところより医療が劣っているということは決してないと思います。もしそういうことを思われるのであれば、私どもなり説明が不十分なのかなと思っております。ぜひ糸魚川市の医療について、熱い思いのお医者さん、医療関係者の皆さんたくさんいらっしゃいます。その中で、人口規模の中で不足する部分は多少あるかも分かりませんが、市民の皆さんが、糸魚川に住んでいて安全・安心の医療体制は十分確保できていると思っておりますので、健康増進課を中心になって、ぜひそこの辺りを知っていただくということも大事なかなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

先ほど企画定住課長から、定住を促進する住み続けたいまちというようなこととお話しいただいたと私は理解しております。これも1つの糸魚川の戦略として、今後考えていく必要があるのではないかと思ひます。

今、現にその現場があります。それは、駅北復興まちづくりです。そこにおいても、住み続けたいまちというものが一番大切と思ひます。それには、住んでる人が主人公になること、なれることではないかと思ひます。この点について、企画定住課に伺ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、地域づくりのほうも地域の課題を解決するというのが第一義なんですけど、やはりその奥にあるのは、住み続けられるまちということになります。地域づくりプランのほうも、一応5年というスパンでやってきましたけども、それが終わったところも含めて、次は住み続けられるうち、

特に地域振興という点と、あとは地域の支え合い、特に福祉ですとか防災の面ですとか健康づくりと。そういった支え合いというところの視点を入れて、何とか住民でできるところは住民で支え合う。そこへはやっぱり行政もしっかり連携する中で、足りない部分は、行政は当然、手を差し伸べますし、一緒になってやっていこうという形で地域担当職員、それから集落支援員、そういった人的なところの支援も引きながら、何とか可能な限りは住み続けられる地域というところで進めているところでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

手法も大切ですけども、実際そうなるかというところがとても大切ではないかなと思います。人口減少問題の対策は、議会でももっと取り上げるべき課題と考え、質問させていただきました。今回の質問、僅かな時間でしたが、最後に、今後の市の取組を市長からしっかりお答えいただきたく、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

冒頭の答弁でもお答えさせていただいたように、やはり人口減少社会、人口減少対策については、糸魚川市の最大重要課題の一番に私はあると思っております。それに対しては、今いろんな行政の施策と、そして住民の皆様方としっかりスクラムを組むことが大事だと思っております。やはりどっちに依存してもうまくはいかないのではないかな。非常に課題というのは大きい課題でございますので、そういったところをしっかりとお互いに共有することが大切であろうかと思っております。そういったところをしっかりと根っこの部分といいたいでしょうか、根底の部分でそういったところをやはりみんなで共有しながら、施策に対して対応していきたいと思っております。引き続き、この行政に対してのご理解をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、質問の1に戻り、新型コロナウイルス感染の現状について再質問します。

市民からは、感染者の行動歴、感染経路、濃厚接触者をいつまでも調査中のままにしておいて、個人情報保護、人権への配慮、行動制限を市民に求める糸魚川市の情報の出し方では、安心・安全どころか不信感が増すだけだ。県内どこでも同じような情報開示なのかと問われています。本当に市民のことを考えていますか。市民部長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

これまでも繰り返しご説明させていただいたところでありますけども、感染者の行動歴等の調査は、感染症法に基づき、感染拡大防止と個人情報保護の観点から、県が事案ごとに判断して公表しておるもので、市は、県の情報に準じて情報提供しており、詳細を承知しているものではありません。これは新潟県に限らず全国で同じ考え方に基づく取扱いとなっており、何とぞご理解をお願いしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

県の方針で感染経路は調査中というまななんです。

一方で、感染経路不明者は、糸魚川は県内でも少ないですよ。これが感染経路不明者グラフでありまして、頂いたもんですけども、上越市が35%、糸魚川市は27%。ということは、糸魚川市は73%は分かっているのに県の指示で調査中として隠し、その後の報告もしないのは市民を軽視しているという市民の声もあります、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほども説明させていただきましたように感染者の行動歴等の調査、これについては保健所を所管する県が行っておりまして、公表時点では感染経路が不明であっても、その後調査を進めることで経路が明らかになる事例もあるというふうに考えております。

ただ、最終の調査結果については、市のほうには知らされませんし、市のほうでは、実は承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、次に、8月までの市内感染者の数を伺います。入院、重症化された方は何名ですか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

8月までの市内感染者数は、44名です。また、市内感染者の詳細を県に確認しましたところ、市町村ごとについては公表しないということでありました。あくまでも感染症法に基づく感染拡大防止のための情報公開であるという観点から、県としては、感染者の療養先でありますとか症状で



ありますとか、回復された方の情報については、公開をする予定がないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

自宅療養中に保健所の対応を待って、重症化した事例が報道されておりました。これを見て、聞いて、不安に思う市民は多い。市内の状況はいかがですか。もし、対応を関係者で話し合っていれば、市民に公表すべきではないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

療養中の情報でありますとか、重症化した事例などにつきましては、市では承知しておりませんが、自宅療養中の対応については、県の医療調整本部、自宅療養グループが担当しております。看護師による健康観察を行っており、仮に症状が悪化した場合には、速やかに入院調整等を行うというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

次に、コロナワクチン接種の状況を詳しく伺います。

8月までの年代別接種率を詳しく、今後のワクチン接種の見込み、ワクチン供給量とスケジュールについても年代別に詳しく教えてください。

あわせて、前回も伺いましたが、上越市、妙高市との比較も数値で教えてください。担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

8月末までの2回目の接種率は、65歳以上が92.1%、12歳から64歳は34.7%です。

今後のワクチン接種については、必要なワクチン供給量を確保した上で、10月末には集団接種を終了し、個別接種を継続し、11月には希望者への接種を完了する予定であります。

ほかの状況であります。ホームページによりますと65歳以上の2回目の接種率は、県平均が90.0%、上越市は非公表、妙高市は91.3%です。

12歳から64歳については、県の資料によると8月30日現在、2回目完了の接種割合は、県平均が28%、上越市、妙高市が35%以上となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ワクチン接種の方法、会場、市民周知について確認します。

集団接種、個別接種共に順調ですか。他市に比べて遅れていることはありませんか。あるいは、他市に比べて優れた取組はありますか。また、供給されるワクチンは、有効に使われるように市が考えて、工夫していますか。担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

ファイザー製のワクチンの供給が7月に大幅に減少したことから、一時的に集団接種の予約を停止しましたが、8月からはワクチン供給量は減少したものの、一定の量が確保できる見通しが立っています。9月にはモデルナワクチンを確保し、安定的に接種ができる体制が出来上がっているところでございます。

今回のワクチン接種に当たっては、糸魚川総合病院、医師会と密に連携しながら、個別と集団接種会場の組合せにより、救急対応を含め、医療対応が整った体制の中で接種が進められた点が強みであったというように感じております。

また、供給されるワクチンが有効に使えるように急なキャンセルの連絡対応等、医師会や糸魚川総合病院の先生方とも一緒に考えながら対応を進めてきたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

若い人たちにも接種するワクチンは、確保されていくということでもよろしいですかね。

それで、その中で若い人たちが気にしている副作用の状況と、その公表についても伺いたいと思います。

また、メーカーによる副作用の違いについて、市で情報があれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

副反応につきましては、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、発熱等が見られます。ファイザーのワクチンよりもモデルナのワクチンのほうが、発熱や接種部の周辺が赤くなることなどにおいて、副反応の発生頻度は多いという報告がありますが、大部分は接種後、数日で回復しているという状況であります。ぜひ皆さんから接種していただくようお願い申し上げます。

てるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

職域接種で使われているモデルナ社のワクチンの、この副反応が心配で受けたくないという若い方たちの心配を払拭しないとワクチン接種が進まないの、その辺りの情報をもうちょっとしっかりと、これから出すべきではないかなと思います。

続きまして、子供たちへの感染拡大とその対応について、健康増進課と教育委員会に伺います。

感染拡大の予防、ワクチン接種への正しい知識の提供について、私は、子供たちへコロナ感染予防は、親、家族の正しい行動からと思いますが、学校や園の役割もあると思います。その取組について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

当市におきましても8月以降、子供たちへの感染が多くなってきております。まず、子供たちの周りの大人がワクチン接種と感染予防の徹底を図り、子供への感染防止に努めるよう今後も取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

園・学校の立場から申し上げます。

園・学校の役割は、子供の偏見等を生まないように、あるいは過度な不安感を与えないように感染予防、あるいはワクチン接種に対する正しい知識・情報を子供たちや保護者に提供することである。

また、ワクチン接種については、身体的な事情とか、あるいは個人の判断に基づく意思決定というものを尊重しなければならないということを、子供たちによく理解できるように指導していくことだというふうに考えております。学校の保健指導や道徳の時間などを通じて指導し、子供たちに対して、自分ごととして考えさせられるように学校現場に働きかけてまいります。また、保護者に対しても随時啓発を続けていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

午前中の利根川議員への答弁とも若干重なる部分なんですけれどもお答えください。

仮にですが、親が子供へのワクチン接種や感染してしまった子供の世話ができない場合の対応は、市で行うことはできますか。いろんな状況を考えてしまい、仮の話で申し訳ありませんが、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

現状におきましては、感染した子供へのお世話につきましては、子供にとりましても家族が行うことというのが一番望ましいというふうに考えておりますけども、市としてどのようなサポートが可能なのか、検討も必要だというふうに考えております。子供への感染防止の観点から、子供の周りの大人からは、ワクチン接種をいただくことが望ましく、引き続き、啓発に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

支援を必要とする家庭の中には、ワクチン接種、それから感染してしまった子供の世話というのが、大変切実な問題であるというふうなことはあり得ることです。教育委員会としては、先ほど健康増進課長が申し上げたとおり、行政として家庭の状況や困り感を伺いながら、他の課あるいは関係機関と連携しながら対応方法について一緒に考えて支援を行っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

全ての子供が安心できる環境を糸魚川市がつくるということで、確認させていただきました。

次に、妊婦さんと家族のワクチン接種対応について、また、ふだんより脆弱な糸魚川の医療体制における感染した妊婦さんへの対応、救急搬送先確保に不安がありますが、その現状と課題について、担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

妊婦やその家族につきましては、ワクチン接種のメリット、それからデメリットを判断の上、接種を希望する方については、早めに接種いただくよう周知しております。

また、妊婦を含む感染者の健康観察につきましては、保健所が丁寧に行っており、症状が悪化した場合は、速やかに救急搬送できる体制が整っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、次は、（4）ウィズコロナ時代の地域医療体制確保について、詳しく伺います。

市内基幹病院である糸魚川総合病院と市外・県外の病院、富山大学との連携について、ウィズコロナ市民医療フォーラムの開催等について、担当課に詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

富山大学とは、医師派遣による地域医療体制の確保と高度医療の提供で、引き続き連携していく必要があるというふうに考えております。また、上越医療圏での連携により、救急医療体制の確保を継続する必要があるというふうに考えております。

地域医療フォーラムにつきましては、地域医療の現状と課題を市民にお伝えし、市民総ぐるみで地域医療を考える機会として開催してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

次、（5）ウィズコロナ時代の地元での医療人材確保策について伺います。

今回のワクチン接種が、市内の潜在看護師の現場復帰の機会となることを期待します。ぜひそうなってほしいと思いますが、現状はいかがですか。雇用条件をよくして、看護師さんを増やすことはできませんか、市長に伺います。

また、小学校、中学校、高校での医療教育を推進して、看護師育成につなげていくことを期待します。ウィズコロナで変わるであろう教育体制を、むしろ医療従事者を増やすチャンスとしていただきたい。ピンチをチャンスに変える。羈本教育長のお考え、何か新しい教育ビジョンがあれば、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、地域医療の中において医師不足、看護師不足、非常に大きな課題となっておるわけでありませう。そういう中でのコロナ禍、非常に私といたしましても、看護師の環境が非常に悪くなるのではないかと非常に危機感を持っておりました。

しかし、地域医療の中において市内の医療機関、また、糸魚川総合病院の看護師さん、非常に積極的に対応いただいております。非常に私は、接遇どうのこうのというような課題も非常に大きく

出てくるのかなと思っておりましたが、そういったところを乗り越えて、今ウィズコロナ、また、コロナ禍において対応いただいていることに対して非常に感謝いたしておる次第であります。

そういう中においても我々といたしましても、これからの看護師環境、または医師環境をしっかりと課題として、行政として対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

ご質問にお答えさせていただきます。

今ほどの医療教育の推進というふうなご提案なんですけれども、子供たちの教育活動の中で医療教育の推進に特化した形で子供たちへの教育活動については、なかなか実現は難しいと思います。

だがしかし、この社会情勢を鑑みましたときに、その必要性については十分私も承知しております。

したがいまして、先ほどもお話をずっとしてまいりましたけれども、子供たちの発達段階に応じたキャリア教育の場面で糸魚川市の現状や医療従事者に携わる方々のとても大切な仕事を担っているということを、危機的な状況になったときにやっぱり医療に携わった方々のお力を借りなければやっぱり命を救えないんだというふうな生命教育にもつながる部分については、やはり日常的な社会情勢も伝える中で糸魚川市の課題等も子供たちに働きかけ、子供たちに考えさせるというふうな機会は、十分に時間をかけて進めていく必要があるというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

十分にご答弁を頂いたと思います。医療の質問の最後に、米田市長が進める看護師養成学校等の設立等について伺います。

言い方は悪いですが、市長は選挙対策で掲げたものの、現実味がない話だとの声も聞きます。でも私としては、ぜひ実現していただきたい。糸魚川の医療と未来の子供たちのために、この質問の最後に市長の決意を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

冒頭の答弁、また、途中での答弁にもございますように、やはり地域医療にとって医師と看護師は絶対不可欠であるわけであります。そういう中で糸魚川のふるさとの子供たちが、医療に対するその熱い気持ちも十分に我々は把握いたしたわけがございますので、地元でそういった熱い気持ちを教育できないかというところをしっかりと私は考えながら、どんな形になるか分かりませんが、

やはりそういった学べる場、そして、そこで育てていける場をつくっていききたいという考えで、そういうその思いを選挙の中で声を出させていただきました。当然それに向かって、今進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ありがとうございます。強く強く、前へ前へと押し進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、質問2の再質問をいたします。この質問のために先月末に、私は大町区の住民の方々と意見交換しました。これを参考に再質問したいと思いますが、新鮮な食材や日用品の買物ができる環境の整備推進について、改めて都市政策課に伺います。

また、先ほどお答えいただきましたが、住み続けたいまちとは、どんなまちだったか、改めて企画定住課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

日用品の買物ということで、今、商工観光課長もおりますので、私としては、少し総枠的な少し答弁をさせていただきます。

まず、今回の復興、駅北大火を受けまして、私どもでつくりました復興計画、ここににぎわいのあるまち、住み続けられるまちというのをうたいまして、その後、復興まちづくり市民会議、駅北まちづくり会議ということで、数々皆様と意見を交わしてきまして、結果としてまちづくり戦略というものが生まれたものでございます。

まず、実際の買物ですが、まずはにぎわいがないと、そこにはビジネスは生まれてこない。じゃあどうするかというと活動という部分になるんですが、そういう活動づくりというのも人づくりで、併せて大事なんですが、そういうふうなことだけを言っておりますと、今現在、被災エリアで日々のお買物とかに困っている方は、現実にはいらっしやるわけです。皆さんと考えてきましたにぎわいづくりの筋道は、やはり時間のかかる過程かと思っておりますので、今現在困っている人たちに対しても、私たちは何らかの手だてをしなきゃいけないと思っております。

その一つが、市長の答弁にもございました移動販売の実施に対する市のアシストということでございますし、もう一方は、例えばこれからいろいろにぎわい拠点施設とかいろんな施設について検討を加える中で、あのエリアの中に何らかの形で就業機能を誘導するということができないかといった面も、そういう施設の検討を併せるような形で、市としては考えていかなきゃいけない課題なんだろうというふうに私は捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

では、私のほうから住み続けられる、1回目の人口減少のところでも答えましたが、まず1つは、住民が主体的に動く地域づくりも含めた共生社会というのはまずありますが、やはり住み続けられるというところになりますと、それプラスやっぱりインフラの整備、やっぱり学校ですとかインフラ、それとかあと日常生活に密着したもの、そういったもの、ソフトとハード、そこがやっぱり一体となったものでないとなかなか住み続けられるというところはできないのかなと思っております。そういった意味で、今このエリアだけでなく全市的なというところでちょっと私の見解を述べさせてもらいました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

移動販売の関係につきまして、若干補足させていただきます。

商工観光課では、買物に不自由を感じている方に対しまして、移動販売をビジネスとして実施する事業者への支援を行っております。

移動販売につきましては、糸魚川駅の周辺エリアでも実績がありまして、要請に応じて移動販売事業者は、販売エリアの拡大ですとか個別訪問にも対応している状況でございます。そのほか大きなお店ではないですが、日用品から食品まで取り扱うスーパーが駅前通りでございます。そのほか商店街が運営する定期市ですとか、商工会議所1階のわいわいマーケット、また、キターレでの販売ですとか無人市ですとかマーケットも見られるようになっておりますので、今後の展開を期待するとともに、また地域の皆さんからもご利用いただきまして、さらに盛り上げていただければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

私の通告書を読んでいただけましたかね。

復興まちづくり計画の住み続けられるまちづくりの実現、これは市長要請のミッションですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

やっぱり議員の今、住み続けられるというところは、一番の根本だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

まちづくりは、住民の話を聞いて理解することからです。私が、本町通りのご婦人から聞いたことは、高齢になると医療と食事が心配。人生の後半に望むのは、本能として食べることへの欲求と健康への渴望。また、大町区のご婦人から聞いたことは、高齢者は住んでいる近くにお買物ができるところが欲しいというものです。

これについて、少し論点を変えて基本的なことを確認したいと思いますが、被災地区の大町区、あるいは本町エリアの特性、都市計画マスタープランなどにおける位置づけについて、都市政策課より詳しく説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、本町通りを含む駅北エリアというのは、昔から糸魚川の中心市街地でございました。本町通りは、特性としまして古くからは加賀街道の宿場町ということで、それ以降も糸魚川駅の近くで利便性が高い金融ですとか商業、いろんな機能が集積して、当然、人も多く集まるエリアという状況でございましたが、やはり近年は、少子高齢化、マイカーの普及等で、あと市役所の移転というのもあったかと思えます。駅北エリア全体に空き店舗等が増加いたしまして、商店街の活力が低下してしまった今のエリアというような状況が特性かと思われます。

都市計画のほうから見た被災エリアの位置づけということでございますが、まず、土地利用の観点からいいますと、やはりあそこは文字通り商業地域でございます。これに関しましては、商業地域っていうのは、田原議員も十分ご存じかと思えますけど、商業に特化するという意味ではなくて、商業に特化したエリアというものをつくるということではなくて、いろんな用途の土地利用を許容するということと、もう一個、敷地面積に対して少し広めに、普通の住居系の地域よりは、土地をいっぱいいっぱい使えるというもの、あと上のほうに高く使えるというところが普通の住居系エリアの違いで、結果として、効率的な土地利用ということでビジネス系の土地利用がしやすいエリアというふうに設定しているものでございます。

もう一点、この25年の用途地域を見直し作業というものを糸魚川市全体で行いました。そのときにも、あそこの地域の商業地域という位置づけは変えておりません。昔から人が住んでいて、今でも糸魚川駅に近い、ポテンシャルの高いエリアだというふうに私どもは位置づけおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今ご説明にあったとおりなんですが、商業地域に住んでいて、食品や日用品が買えない。お買物

の環境が整っていないというのは、冗談みたいな話ですが、住民には深刻な問題です。その矛盾と  
いうか計画と現実が乖離している環境に被災者住民が住み続けることを、行政はそのままにしてお  
いていいのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まずもって、先ほどの説明も申しましたが、商業地域だから商店がなければいけないということ  
ではなくて、商業がやりやすい地域というふうな設定だというご理解をいただければと思いますが、  
先ほどの答弁でも私申しました。商業地域だから商業を誘導するというのではなくて、やりやす  
いエリアを設定していくというのは、市としては必要かと思えます。

ただ、今、喫緊の課題は、やはり被災されて戻ってこられて、今困っているという方への対応だ  
と思えますので、そういう部分に関しましては、少し都市計画という時間軸とは違った流れで考え  
ていく必要があるんじゃないかなというふうに私は考えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

次に、被災地ににぎわいをつくるには、誰が何をどのように、いつまでに進めるのか、改めて伺  
います。具体には、市が取得したビルの場所の活用方法は、地元の要望を聞いて、まとめて、取り  
入れて、計画して示してほしいと住民の方から、先日ご意見を頂きました。

行政としては、以前より子育て支援の場所としたいと聞いていますが、誰が何をどのように、い  
つまでに進めるのか、都市政策課とこども課、それぞれの役割から詳しく伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、被災エリアの旧井上商会様倉庫跡地のところに子育て施設をつくるという計画が今、動い  
ております。これは私どもも先ほど申しました市民会議からまちづくり会議とかいろいろ重ねてき  
まして、広いエリアの皆様から、糸魚川にとって必要なのは子育て支援に関する施設だという声を  
聞いたのと、もう一個は、行政の課題として今、子育て支援機能が少し、大分窮屈になってきてい  
るという、そういう市民の方のニーズと行政課題がマッチ、そこで一致したからというふうに捉え  
ております。

ただ、そこで子育て施設だけを今造ればいいというものではなくて、例えば旧東北電力ビルのと  
ころも含めたエリアというふうに考えますと、今、市長のほうからも先ほどの答弁にも近いものが

ありますが、複合的な施設を目指すことということの、そういう検討もちゃんと加えること、それについてもっと広く、多く意見を聴くという指示を頂いて、私どもは活動しております。

ただ、青海から能生からいろいろ意見をお聴きして回ったのですが、中心市街地の方は当然、イの一番に聴いておりますが、まだ広く聴いておるときになかなか、私どものペーパーと平面図と口だけではなかなかの音が吸い上げられないですし、その場で絵を見た方が、すぐご意見を頂けるといこともないかと思われま。すので次は、じゃあ私どもが考える子育て支援施設の施設関係は、こんなことを考えていますというもうちょっと具体的な提案をお示しすることで、もう一度2巡目に、また皆様方にご意見を伺いに回しまして、そのときに、より具体的な絵を見ることで、もう少し逆に市民の皆様からも具体的なご提案ですとかご指摘が頂けるものではないかというふうなそういうやり方で、時間はかかりますが、皆さんから広く意見を聴きながら進めておるといような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

こども課の立場から回答いたします。

先日の一般質問でも私申し上げたとおり、子育て世代の声といいますかアンケートの中で、前から雨天時や冬期間でも利用できる屋内遊戯施設の整備という声が非常に多くございまして、まだ実現できていないという行政的な課題があります。その行政課題の解決というところで、子育て支援施設を整備させていただきたいという思いが1つございまして、そのためにまちづくり戦略の中でにぎわいの拠点施設の方向性というところで、子育て支援を中心とした機能というところでお示ししたということでございます。

都市政策課長が申し上げたとおり、子育て支援を中心とした機能ということで、中心ですので付随する機能については、今後ご意見を伺いながら決めていきたいというふうに思っておりますし、当然整備する、地元で歓迎されない施設では困りますので、そういったところは地元と慎重に意見交換をしてまいりたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

子育て世代が望む施設を造って。大賛成ですよ。そのことと、にぎわいづくりという課題を合わせていく。これもいいですよ。

ただ、まちづくりは、誰とどう関わるかで、その方向性が大きく変わると言われてるんです。今までの糸魚川市のそこら辺の取組が、果たしてどうだったのかということをおの質問で、私は聞きたいと思ひます。

地域の住民の方からは、子育て施設が地域にどんなにぎわいをつくるのかと、地域に子供が少な

いの、なぜ子育ての施設を造るのかと聞かれますが、これはまだ合意形成ができていないということなのでしょうか。まずは、地元理解され、協力してもらえる子育てであることが大事ではないでしょうか。

そこで、私思うんですが、地元の皆さんとちゃんと膝突き合わせて、糸魚川市の日本一の子供づくりについて話し合う。こういったコミュニケーションの場がないと、この先には進めないんじゃないでしょうか。教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

回答させていただきます。

今の私の立場からいいますというと、諸課題解決のために地域の皆様方と一緒に膝を混ぜ合わせてと今、田原議員のお言葉がありましたように、やっぱり直接いろんな情報を交換しながら、やっぱりどこで折り合いをつけられるのか、どの辺の部分まで、その部分のところは許されるのか、進めていいのかというあたりのところをもうちょっと時間をかけて、丁寧にやっぱり進めていくべきだろうというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

あわせて、まずは町なかの暮らしにふさわしい生活環境のための施設としてほしいので、いろいろ話し合う場が欲しいという地元住民の声にどう応えるかです。私は、そこに住むまちづくりのプレイヤーの皆さんの前向きな考えを伺う場、このプレイヤーというのは、そこに住んでる人のことです。そういった皆さんが、どんな思いを持ってるか、そして、その思いを寄せ合う場、そこに çıkかけて行って、ちゃんと話を聴くことが最も大事だと思うんですよね。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、やはりそういう住民の皆様方の意見を聴きながら進めていく手法で取り組んでおる次第でございます。そういう中で一部の人だけの声を聴いて、その人たちの考え方をまとめていけということでは、私はないと思っております。やっぱりある程度の大きさの枠の皆様方とお話を聴く中でまとめていきたいと思っておる次第でございますので、そういった手法を今までもやってきてるんですが、さらにまた、今ほど担当の話にありましたように丁寧に取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今のご答弁は、ちょっと残念でした。誰とどのように関わるかで、まちづくりの方向性というのは変わっていくんだと。今までやってきたそれがいかなかったのかということをお聞きしたいです。

市長もご存じと思いますが、地元の皆さんの知識・経験、文化への理解、パートナーシップは、糸魚川の宝物です。これを生かし、まちづくりに一緒に取り組む市民としてご活躍いただきたいと思っておりますし、そうすべきです。また、ここにいる行政の皆さんの知識・経験、文化への理解、パートナーシップも同様に生かすべきものと思っております。この官民連携について、市長はどう考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もお聞きいただけたいのは、ちょっと残念であります。私は、今までも皆さんの声を聴きながら、そして総合的にまとめて、進めてまいっております。決して、その意見は無にしているわけではございません。その時々にはちゃんとお答えさせていただいております。できないものではないという言い方をさせていただいております。そういう形をやはりキャッチボールをしながらまとめていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

建設的な話をしたいと思っております。市が取得したビルのエリアの活用について、専門のお立場から伺います。

都市政策課とこども課は、子育て施設ということで決まっていますが、一方で、大町区の方からは、1階にコンビニエンスストアと温浴施設、2階に子育て施設、3階に展望のよい集会施設と集合住宅という案を頂いております。

コンビニエンスストアの出店は、立地とマーケティングがありますが、以前に市内の経営者の方から、市に言われれば条件次第で出店すると伺ったことがあります。ぜひ検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤喜代志君登壇〕

○産業部長（齊藤喜代志君）

どうもご意見ありがとうございます。コンビニとかの話については、かなり早いうちからいろいろ出てきたところもあります。あそこのエリアの最初の段階で、サウンディングという民間の活用

についてのアイデア聴取をしたこともあるんですが、コンビニとかという話もありました。そのときには、やはり今ですと大型駐車場が必要だということで、あのエリアでは厳しいというようなこととお話として伺っております。

私も、市から頼まれればという形でのコンビニ出店というのは本当に可能なかどうか、やはりあそこで商売として本当に成り立つのかどうかというところ、それが大事ですし、今ほどあった温浴施設、入浴施設についてもしっかり運営ができるのかといったところ、そういったところをしっかりとやりながら計画を積み上げていかなければいけないというふうには思います。そういった話は、皆さんと市民の方々と、エリアの方も含め、そういった場を今後持てれば、やはり持っていきたい。ただし、そのときにはやはり運営も含めて、本当にその施設が将来維持できるのか、そういったところも含めた中での話として実現可能というところを探っていく。そういった形で、今後はまちづくりというのは進めていかなければならないというふうにご考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

私からは、相馬御風先生の資料を主とした郷土資料館、図書館のアネックスとすることを提言します。

これは以前より、地元の方から出ていた案です。御風先生の功績と糸魚川文化に馴染んだ地元の方に参加協力してもらい、地域の学びの先生となっていただき、糸魚川文化を伝え、広めていきましょう。文化振興課、生涯学習課、それぞれのお考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

駅、日本海、中心市街ということで、回遊性、利便性を高めるためには、住民の方、また地元の皆様から課題・要望をお聞きする中で対応したいというふうに思っていますが、当課の関係する歴史・文化の面では、課題・要望等ございましたら、当然、関係課と協議しながら対応してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

市民図書館につきましては、建設から40年を経過しておりますことから、今後、都市機能誘導施設でもありますことから、その辺を含めて今後検討してまいりたいというふうにご考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そうなんです。都市機能誘導施設なんですよ。そういう地元の声もあったんで、ぜひ進めていただきたいと思います。

それで、私の考えは、そこをみんなの場所にする事です。これは町なか大家族の考えとも合致します。一番の目的は、いろんな人が来て、ひとときを過ごす心地よい場所をつくる事です。さらに、そこに親子が過ごす仕掛けを考えられないか。また、市民が思い出をつくる場所とできないかとも考えます。なので、どんな機能の建物となるかは、まだ輪郭線で描く程度でもよいと思います。でも、このイメージを地元の皆さんと共有することから始めて、具体化していかないと、そこはみんなの場所とはならず、まちづくりの核となるところのリノベーションは、多分成功しないでしょう。担当課のお考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤喜代志君登壇〕

○産業部長（斉藤喜代志君）

お答えします。

やはりこれからのまちづくり、今、議員おっしゃったようなこと非常に重要かなというふうに思っております。そのときにやはり大事なのは、先ほども私申し上げましたが、誰でやっていくかのところで、やはり行政だけでやるものではないですし、民間の皆様、市民の皆様とやっていくもの、市民の方たちじゃなきゃできないものというものもあるかと思っております。そういった話をしながら皆さんが集える、そういったエリアにしていく。そういうことが大事かというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そこで、企画定住課が市内各地で取り組んできた地域づくりプラン、この大町区バージョンの実施で、住民の声を十分に聴く機会を設けて、まずはしっかり対話しませんか。胸襟を開いて、虚心坦懐に話し合いませんか。市長、今日、私は、膝を折り、手をつき、こうべを垂れてこのことを市長にお願いいたします。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご承知のとおり、地域づくりプランについては、やはり地域が主導となって、地域がまとめていくものでございます。そして、やはり地域の考え方をどのようにしていくか、そして、行政の考え方とどこですり合わせるかという形で、今、他の地域、皆さん取り組んでいただいております。

そういうことで、駅北大火と、当然そういう1つの災害のあった場所ではあるわけですが、地域づくりプランについては、やはり他の地域と同じような考え方で地域がどのように自分た

ちの町をどのように考えているか、そういうところはやはり必要であろうかと思っております。その辺をやはり1つのエリアとしておまとめいただいて、すり合わせという形に持っていければ、行政と、その辺をどのように進めていくかという形で、私はこれから行政も連携を取っていけるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

会議の手法はともあれ、皆さん、市長、行政ともっとお話ししたい、そういう気持ちでいるんですよね。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに地域づくりプランの前段は、まず話合いというのが一番大事になってまいります。地元での膝を交えてのコミュニケーション、まずそこから始まるものと思っておりますので、そういった取組から進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

今回質問に上げましたキターレについては、建設の目的の確認、指定管理者交代の理由、地域の課題解決についてなど、これは建設産業常任委員会で確認させていただきます。

また、本町通りのイメージ形成については、宿場町の風情の再生と観光活用など、再質問を準備しましたが、次回の一般質問で伺いますので、よろしく願いいたします。

以上で、終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。再開を2時55分といたします。

〈午後2時41分 休憩〉

〈午後2時55分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

新保議員。〔4番 新保峰孝君登壇〕

○4番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、談合問題と入札制度の改善について、新型コロナウイルス感染症対策と産業振興についての3点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、談合問題と入札制度の改善について。

(1) 糸魚川市の入札に対するこれまでの考え方や制度によって、平均落札率97.3%という高い落札率が続いてきました。このことをどのように受け止めているか。明らかとなった官製談合の土台に業者間談合がなければ、このような高い落札率が続くことはないと考えます。

官製談合に対する有罪判決が下されましたけれども、官製談合や業者間談合に対する市長の基本的考え方、認識を伺いたいと思います。

(2) 産業の振興という角度から談合問題を捉えると、安易な談合を繰り返していると競争力も技術力もない会社ばかりになってしまうのではないかと危惧します。談合が建設業に与える影響をどのように考えていますか。

(3) 現行の入札制度の下で、工事箇所・地域と落札業者の関係はどのような傾向があるか把握しているか。不正があった場合の処分の期間と考え方はどうか。新潟県に準拠して変更したという最低制限価格91%を75から92%にした考え方はどのようなものか。今回の官製談合を教訓に入札制度をどう改善したいと考えているか。

(4) 8月27日に今回の官製談合事件の判決が出され有罪判決となりましたが、今回の事件から教訓としてどのようなことを学んだか。入札制度をどう改善したいと考えているか。

2、新型コロナウイルス感染症対策について。

(1) 新型コロナウイルス感染拡大が全国的な広がりを見せており、都市部では入院できない在宅療養者が急激に増えているとのこと。糸魚川市においても感染が続いていますが、現状をどのように捉えているか。

(2) 新型コロナウイルスが感染力の強いデルタ株に置き換わったことにより、これまでの対策では対応できない状況も報道されております。

今後のワクチン供給計画、接種計画はどのようになっているか。低年齢児やワクチンの2回接種を終えた方たちも含め、今後の感染対策をどのように考えているか。

(3) 新型コロナウイルスの感染が地方にも急拡大している中で、国・県に対し医療・経済対策等、対応に力を入れて取り組むよう求め続ける必要があると思うがどうか。また、市としての取組については、どのようなことを考えているか。

3、産業振興について。

(1) 中山間地域の水田、畑、山林等の維持管理は、災害防止の面からも大きな役割を果たしていると思います。中山間地の資源を生かした仕事づくりの取組が求められているのではないかと。

(2) 山林や耕作放棄地を活用した1次産業に対する幅広い起業支援を推進するための組織をつくったらどうか。

(3) 海洋資源を生かした仕事づくりの取組は、どのように行っているか。

以上、第1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、いずれも決して許されるものではないと考えております。

2点目につきましては、競争力など低下につながるものと考えております。

3点目につきましては、工事箇所のある地域に所在する事業者が落札者となる傾向があると認識いたしております。

また、指名停止期間や最低制限価格の設定など、入札制度については、原則、県に準拠しており、県では最低制限価格を国や都道府県などの低入札対策の見直し状況などを踏まえ、変更したものであります。

4点目につきましては、適正な入札執行に努めてまいりましたが、現実として今回のような事件が起きたことについて、重く受け止めております。再発防止に向けて、官製談合再発防止対策委員会の提言を踏まえ、公正かつ透明性のある入札制度を目指し、改善してまいります。

2番目の1点目につきましては、市内においても若い世代や子供への感染が広がっていると認識いたしております。

2点目につきましては、ワクチンが10月までに対象者の9割が供給される計画であり、11月には希望者への接種を完了する予定であります。ワクチン接種後においても、感染の可能性があるため、引き続き、基本的な感染予防対策の徹底を周知してまいります。

3点目につきましては、国・県に対して必要な対策を要望するとともに、引き続き、ワクチン接種と基本的な感染防止対策の徹底を働きかけながら、社会経済活動との両立に取り組んでまいります。

3番目の1点目につきましては、地域資源を活用した仕事づくりや多様な働き方を求める方々から選ばれるよう、今後も取り組んでまいります。

2点目につきましては、新たな組織の設立は考えておりません。

3点目につきましては、海洋高校の加工品開発、商品化や市内企業と連携した取組により、雇用も生まれており、引き続き、支援してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

1番目の談合問題と入札制度の改善関連で伺います。

7月21日開催の市議会コンプライアンス調査推進特別委員会への提出資料によりますと、平成

28年度から令和2年度までの5年間分、1,470件の工事入札結果のうち、落札率100%の工事入札状況と、99%以上100%未満の工事入札状況が掲載されております。落札率100%は、平成28年度から令和2年度までの5年間を、順で言うと3件、5件、2件、4件、3件、落札率99%以上100%未満が、30件、44件、35件、39件、23件となっております。平均落札率は97.3%であります。官製談合の新駅公衆トイレ整備工事の落札率が99.1%でしたので、工事入札全体の12.8%、13%ぐらいが官製談合と見て、差し支えないんでないかと。その他のほとんどが業界談合と言えるのではないかとというふうに思います。

駅北大火は、平成28年12月22日に起こりましたが、平成28年度には、大火前の工事入札状況も含まれており、大火前から高い落札率が続いてきたことが示されております。大火前から談合は続いていたと考えるのが自然だと思います。糸魚川市として、可能な限り遡って入札結果を調査し、どのように推移してきたか把握することが必要と思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

今までの経過からいきまして、今回このような事案・事件となってしまったのは大変申し訳なかったんですが、可能な限り推移について調査するのは可能なんですけれども、やはり97とか98とかという形で、今遡れるものはそういった形で推移しております。

ただ、それがそのまま談合につながっていたかどうかというのは、憶測の域を出ないところもございまして、率だけで判断というのは、私どもの中ではちょっと厳しいかなとは考えております。

ただ、そういった事情を踏まえまして、今、第三者委員会でも外部の目を入れた中で検討しているところがございますので、専門家でありましたり、そういった外部の方からのご意見を聴きながら、今後の入札制度をどうしたらいいかというのを見直してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

可能な限りやりたいと。けれども97.3%という平均落札率、こういうふうなもの、あるいは99%以上とか、100%とか、そういう数字だけでは難しいということになれば、糸魚川市は、これまで工事を行ってきたわけですが、糸魚川市としては、内部告発とか何かなければ談合が行われているかどうか、官製談合が行われているかどうかも含めて、そういうものは分からないと。要するにどんなに高い落札率の結果になっても市としては分かりませんと。それで済ませるつもりですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

やはり談合があったかどうかということになりますと、市のほうの調査では限界があるかと感じております。ですので、証拠という形でお示しできるものがないので、今の段階では、この落札率の推移という形でしか見れない以上は、それが本当に談合かどうかという判断というのが、市のほうでは難しいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

今言われたのでいいと思うんですよね。市は、警察じゃないんで捜査権ありませんし、今までの結果をまとめて、どういうふうになっているかというのをはっきりさせると。それを見て、どういふふうに判断するかは、その先の問題なんですよね。だけでも、疑問を持たれるような数字だというのは明らかになるわけです。例えば99%とか100%とかというのがいっぱいあったとすれば、糸魚川市は疑問に思わないかもしれないけども、上越市や妙高市や、あるいは新潟、長岡といったほかの市は、これは談合やってるんじゃないかというふうに思うと。糸魚川市のほうは、結果、落札率が上のほうに集まっているけども、ほかの市町村は、割と下のほうに集まっていると。これはどういふんだらうというのも含めて考えれば、当然、談合してるとでないかなという疑いは出てくるわけです。行政はそこまでやらしてもらえばいいのではないかと、私は思うんですけどね。そういう観点で、ぜひきちんとしてやっていただきたいと思います。

少なくとも官製談合の疑いで、市職員が逮捕された時点で、市長は入札状況を調査し、報告することを担当職員に指示するのが当たり前と考えますけれども、いかがでしょうか。資料が押収されたとしても、当然のことと思いますけども、どのように指示されましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

捜査状況につきましては、ちょっとお答えのほうはできないんですが、そういった形で官製談合等発覚といいますか、5月に職員の逮捕をもちまして、以降、市のほうでは、過去の状況であったり落札率の状況であったりということで、調査といいますか資料のほうの取りまとめであったり、そういったものをできる限り進めてきた状況にあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

市長の指示は、あったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

具体的にということになりますと、ちょっと覚えてないので申し訳ございません、お答えできないんですが、当然、この件につきましては、市長のほうにも報告のほうを上げさせていただいておりますし、捜査であったり、そういったものに対しては、協力するよということでお話はさせていただいたかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

官製談合とか業界の談合は、米田市長の支持母体と密接な関係があると思いますので、やりたくないと思いますけれども、市長も市職員も、市民から給与を頂いている公の人ですから、不正がある場合、不正の疑いがあるときは、きちんと調べるのが当然のことと思います。いつまでも不祥事が続く糸魚川市では困るわけです。こういう点、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに私の講演会や支持母体においては、建設関係が多いわけでありますが、だからといって私は、その調査なり、何ですかその検査などは手を緩めるというようなことは指示した覚えもございませんし、逆に、やはりしっかりと協力して、進めていくよということに指示はいたしております。しかし、これは口頭でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

市役所への家宅捜索、逮捕、起訴後、どのように対応されたかということですが、官製談合が疑われる入札等を調べたか。先ほど調べたって言われましたけども、どの時点からそういうことをされたか。糸魚川市として調査の現状、今もずっと続いているのかも分かりませんが、調査の現状はどうなっているか、どこまで前の資料をそろえたか、市議会や第三者委員会に言われなければ動かないようでは、説明・改善する気がないと言わざるを得ないわけですが、それは仕方がないのではないかと思います、この辺の状況をどういうふうにやってきたか、現状はどうなっているか、聞かせていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

調査につきましては、個々の案件について具体的に何をどうっていう調査ではなくて、落札率、土木工事であったり建築であったりということで、そういった工種別の落札率が、どう推移してきたのかとか、そういった観点で進めております。調査といいますか資料のほうの作成を進めてまいりました。

また、並行しまして第三者委員会の立ち上げ等で委員の方をお願いするとか、また、先生、委員長等、どういった資料で、どういう考え方で、どういった資料をそろえればいいのかというのを協議して進めておりますし、また、先生の考え方についてもお聞きをしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

何でもこういうことを聞くかといいますと、裁判の際の発言ですよ。その状況と、実際どういふふうに入札結果が動いてきたかということをはっきりさせる必要があると思うんですね。ずっと遡って、どこまでできるか分かりませんが、できるだけそういう資料をきちんとまとめておくことが大事だと思うので、ぜひやっていただきたいと思います。

それから、先ほど答弁ありましたけども、談合が当たり前になっていると、想定ですけども、競争力がなくなってくると思いますけども、糸魚川市の建設業界は、市内の企業と比べて競争力があると思いますか。率直な感じで。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

入札につきましては、制限つきですが、一般競争入札という形で実施しておりますので、それに対して応札してきていただいておりますので、基本的には競争力はあると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

糸魚川市として入札に当たって、地元企業の実力、技術力や競争力をつけるための観点は、ありますか。以前は力をつけるために共同企業体を組んでもらうとかというようなことを言われておりましたが、第1回糸魚川市官製談合再発防止対策検討委員会、第三者委員会の資料にある糸魚川市の入札では、共同企業体等の記述を見ますと、そういった観点は感じられず、事務的な感じがします。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

企業の皆様の努力であったり、創意工夫になるかと感じております。

また、先ほど議員おっしゃったように共同企業体を組むことで技術力のほうのアップ等もあるかと思えますし、適正な積算を組むという形で技術力、あと積算能力のアップを企業側の努力としてしてきていただいているものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

競争力という点から見ますと、1者応札の場合の対応では、平成25年までは入札中止、平成26年からは競争性が失われるものではないので認めとなっております。当時の落札率等を見て、判断したものでしょうか。それとも電子入札だから大丈夫と考えたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

申し訳ございません。過去の検討結果につきまして、ちょっと今私の段階で、すぐお答えするのができないので申し訳ないんですが、基本的には1者応札でありましても、応札時にどの業者が入ってる、何者入ってるという情報というのは分からないので、競争原理が働いているということで認識しております。

また、先ほど議員おっしゃいましたように、電子入札ということで取組のほうをしておりますので、前ですと紙入札の場合は、業者さんが顔を合わせるということがあったかと思うんですが、電子入札以降は、顔を合わせないで入札行為がされておりますので、そちらのほうも対応してきたと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

例えば何者入っているか分からないということであっても、市内の業者だけの対象にした入札であれば、市外の業者が入らないということであれば、もし業者間談合が行われていれば、電子入札であろうが紙の入札であろうが変わりないですよ。その辺のところは何も感じないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

こちらのほうは、前から答弁のほうをさせていただいてまいりましたが、予定価格と最低制限価格の間に入っているので、入札については適正に行われてきたという認識でございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

予定価格を計算するソフトが、どの当時に開発されたのか分かりませんが、恐らくあったと思うんですね、そういうものは。ですが、前にも言いましたように、そのソフトは予定価格をこのぐらいでないかというふうに調べるソフトであって、それから先が、それぞれの業者さんが、自分は何だけの額で工事やりますよと、競争がその先にあるわけですよ。

ところが、97.3%、99%か100%というのが、ほかの自治体でどのぐらいあるか分かりませんが、非常に高いと。というのは、電子入札であっても紙の入札であっても、事前に談合があれば意味がないじゃないかということになりませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

談合については、ないものということで私どもも業者さん信用といたしますか、そういった形で考えておりましたし、市のほうとしては、予定価格の間に入ったということで適正な入札だと認識しておりました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

人間は、みんな真面目な人が多いと。特に業者さんは、市と取引してる業者さんは、真面目な業者さんが多いんで談合はないという前提でやると。気持ちとしては分からないでもないですけども、行政というのは、割と厳しく金の出し入れというのやってますよね。そういうことを考えれば、真面目な企業だけだけでも、談合ちゅうのもあるかもしれないということで、きちっとやる必要があると思うんですよ。

私は、やはり合併前の旧1市2町のうち、青海町では開かれた入札ということだったそうです。要するに、ほか市外の業者も入れて落札・入札を行うと。細かいことは分かりませんが、談合をなくして競争力をつけるためには、市外からの参加、これも考えると。それを実施していくということにしないと、なかなかこれは大変なんではないかなと思います。こういう点も検討したらどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、今回の事件を見ますと、やはりそういったところも必要だと感じておる次第でございますが、やはり私は、市内の企業育成だとか建設業の果たす役割というものを考えたときに、なるべくなら地元業者に受けていただきたいという気持ちがございます。それで、合併後はどうしても旧能生



町であったり旧青海町であったり旧糸魚川市の発注枠というのが結構、持続しろというような意見はあったんですが、それはやめて、やはり合併をして1つの市になったんだから全て1つにやらなくてはいけないということで、努力して進めてきたわけでごさいます、そういうところが、私は公平性をしていくのではないかという気持ちで取り組んできました。

しかし、現実的にこういう事件が起きたということは、議員ご指摘のような点については、しっかりと受け止めていかなくてはならないと考えておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

ぜひきちんとしていただきたいと思います。

処分の期間と考え方の関係で伺います、業者さんのですね。

5月19日に官製談合の疑いで市役所や猪又建設への家宅捜索が行われて、翌20日に猪又建設に対し、6か月の指名停止措置が行われました。8月27日に新潟地裁で、当時の建設課、久保田係長に懲役1年6か月、執行猶予3年の判決が出て、同日付で懲戒免職とされました。猪又建設の古川元営業部長は、懲役1年、執行猶予3年の判決でした。

糸魚川市建設工事等請負業者指名停止等措置要領では、期間の延長・変更が定められております。これだけ大きな問題となった事件について、米田市長は、法に基づいてどのような判断をされるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

先般、裁判によって刑のほうを下されまして、2週間ですか、控訴期間というのがあるかと思いますが、それをもって刑の確定が行われると考えております。今現在では、今の制度にのっとった形で指名停止期間のほうを設定しておりますが、今後、また久保田でありましたり、調査のほうを聞きまして、内容についての確認をしたいと考えておりますし、それをもって、また約款等に照らし合わせて、延長が必要であるとかそういった形のものがあれば、また検討といいますか協議のほうを重ねてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

この6か月というのは、暫定の指名停止措置だったんじゃないんですか。裁判には、逮捕されて、その結果どうなるか分からないけども、これは重要な事件だということで、暫定的に6か月にしたんじゃないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

約款に基づきまして、逮捕の段階で、まず指名停止措置をするということで決まっておりましたので3か月、うちのほうの決め事になりますが、3か月から12か月の間という形で、今指名停止期間を決められるような形になっとるんですが、その中で3か月を取らせていただいております。

ただ、猪又建設さんのほうは、1年以内に工事の事故の関係だったんですが、指名停止を受けておりましたので、それを下限を2倍にするということで6か月の停止という形で、今回処分のほうをさせていただきます。

また、今回、公判により中身のほうが決まっておりましたので、先ほど申し上げたように内容のほうを確認いたしまして、どうするかというのは今後協議をしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

そうすると、ちょっと私の認識の違ってたところもありますけども、そうだとすると6か月というのは長いようで、業者さんにしてみれば長いと思うかもしれないけども、発注される側というふうな観点から見れば、じきに6か月たつわけですよ。1年、12か月あるうち何回発注のそういう機会があるか分かりませんが、じきに6か月は過ぎてしまうわけですよ。私に言わせれば、あまり厳しい指名停止措置じゃないというふうに思うんです。もっと厳しくやる必要、これそのものをもっと厳しいものに変えなきゃならんと思うんですけど、今の段階で、これはもっと、もう少し延ばす必要あるんでないですか。これだけ世間を騒がして、糸魚川市の名前を悪い面で全国的に宣伝してもらったような格好になりましたね。中身も非常に官製談合ちゅう悪質なわけですよ。それで6か月で終わりですというふうにはならんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

まず、先ほど申しましたように3か月というのは、逮捕という段階での期間といいますか、3か月という形、それが倍になって6か月になってるという形なんですけども。また、公判で供述内容等も、ある程度明らかになってまいりましたので、その辺りについては今後調査いたしまして、また、他市の事例等も鑑みまして、期間のほうは協議していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

市の職員は、これは本人が悪いと言われれば、それは当然なんですけども、懲戒免職ですよ。もうそれで首です。これだけ大きな問題となったわけですから、その相手は職員とは言いながら、会社を代表して契約なり入札なりに責任持ってる、そういう部署におられた方でしょう。そういうこ

と、その相手の方もそうだけでも、もちろん個人同士の取引じゃなくて、糸魚川市が金を払って、猪又建設がその仕事を受けて、その代金を受け取ると。そういう関係なわけでないですか。1人の職員が、もう大変な状況に追い込まれている。会社のほうは6か月で済ませるといのは、今後のことを考えても、私は非常によくないことだと思いますので、きちんと厳しくやっていただきたいということを述べておきます。

最低制限価格の関係でありますけども、全国的な状況を考えてこうしたということでしたが、最低制限価格91%を、下限を75%にして、上限を92%にしてるわけです。下のほうは75にするちゅうのは、以前ずっと前の入札の際は、結構、下限75%ちゅうのはあったと思うんですね。何で、その幅を持たせて、上のほうを上げたのかと。下は75%なのかと。そういうことを新潟県に問い合わせただけましたかということなんです。そしたら、機械的なそういう答えがあったちゅうことですか、県から。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

直接、県のほうへの問合せのほうは行っておりませんが、新潟県のほうで最低制限価格等の設定についてということで、ホームページで広報のほうを出しております。その中で競争性、公平性、透明性の確保及び工事の品質確保を前提といたしまして、国や全国都道府県の最低入札対策の見直し状況及び災害対策や除雪などの地域の安全・安心確保に貢献する新潟県の建設業が果たすべき役割等を踏まえて、今回の最低制限価格の設定について見直しを行ったというものになっております。

また、県のほうでは、中央公共工事契約制度運用連絡協議会というのがございまして、これが中央の、国のほうの省庁であったり公団であったりというのが入った協議会になるんですが、そちらの中央公契連モデルというのがございまして、そちらのほうを参考に設定のほうをされたと考えております。若干ちょっと計算の内容が違うんですが、基本的には、そちらのほうを参考にしながら県のほうは設定されたと認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

新潟県は、ほかの県とは違うというふうに言われてきたんで、ちょっとよく理解できない点がありますけども、次へ行きます。

私が一番問題だと思うのは、糸魚川市の職員の皆さんが、何も感じなかったと言ってることなんです。直接関係しない部署であれば、そういうこともあろうかと思えますけども、関係部署の職員がそういう感覚だと、一般市民は、職員は何を見ながら仕事をしているんだろうと思ってしまっているのではないかというふうに思います。権現荘問題もそうですし、基本的に職員は、市長の意向を伺いながら、その指示で動きます。米田市長には、その責任を自覚していただきたいというふうに思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり私は、今回の件については非常に重く受け止めておるわけでございまして、それに対しては、しっかりとした対応をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

入札制度は、どのように改善したいかということですが、第三者委員会にお任せしているんですけど、この答弁でしたよね。それでいいのかと。行政は行政で、こういう点は問題でないかとか、問題意識持たなきゃならんのではないかと思うんですよ。その点については、いかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

問題をしっかり持っているとは前段からお答えさせていただいておりますし、ただ、そのやはりパーセント、受注のパーセントと官製談合と同一視するというのは、なかなか我々としては難しいと思っておりますので、その辺の受注率のパーセントと談合とは切り離して、やはり談合は絶対させてはいけないし、してはいけないという、そういった入札方式を取っていききたいと思っております。受注率のパーセントというのは、その枠の中で対応するものだと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

この入札制度というのは、新潟県内でも30市町村でしたかね、あるうち10ぐらいでしたか、糸魚川市と同じような制度を持つてるところ。新潟県そのものが、都道府県の中では新潟県は独自の考え方でそういう入札制度をつくってる。そういう中で、新潟県内であちこちの市町村が、みんな入札制度をいろいろつくってやってるわけです。糸魚川市と同じところがどんだけあるか、そうでないところがどれだけあるか、はっきりはちょっと分かりませんが。それでも、それぞれの市町村の担当者が、平均落札率97.3%という自治体がどんだけあるか分かりませんが、今、市長の言われた感覚で、皆さん私はそういう市ちゅうのはあまりないんじゃないかなと思いますよ。そら結果は結果で、もちろん競争があれば、あり得ることです。それはいろんな数字が出てくるのはね。だけど、全体としてこんなに高い数字になるところはない。新聞でも書かれたわけで、報道もされたわけでないですか。だから、考え方をぜひ変えてもらいたいと思うんですね。

それともう一つ、第三者委員会に任せても、第三者委員会はしっかりした人たちに任せたいと思いますので、中途半端なそういう結果なり改善策ということはないとは思いますが、そういう点も全部任せっぱなしじゃなくて、糸魚川市の入札制度なり建設関係、いろんな仕事のそういう関係の仕事をもう少ししっかりやって、その関係企業もしっかりした企業になっていくというふうな立場でやっていただきたいと思います。

ちょっと時間がなくなったので、次、行きます。

新型コロナウイルス感染症対策ですが、今の日本の感染拡大は、かつての欧米の感染拡大と似たような状況になってきたのではないかと。感染者が1,000人台だったのが、1万人、2万人、3万人というふうな一桁上がってるわけです。そういう中で、6月5日、18時30分時点、NHKのまとめでは、国内の感染者が1万2,908人増えて157万4,507人、重症者数が2,207人とのことです。特徴は、自宅療養の方が増えてる。重症者が増えてるということだと言われております。

こういう中で糸魚川市、先ほどの田原議員のその前の部分ともやり取りが、この関係であったと思いますが、糸魚川市として感染がデルタ株に続いてミュー株というものも出てきたと。これはワクチンの効きが悪くなる。そういうものらしいですが、そういう状態の中で、家族の中でみんな感染してしまったと。子供さんどうするんだというのが、親御さんが亡くなって、子供さんと配偶者が残されたというのをテレビでも言われてました。糸魚川市もこういう点できちんと対応する必要があると思うんですよ。

まず、その点について早急に、そういうあってもなくてもいい、出てもすぐ対応できるような形をつくっておく必要があると思いますが、その点もう一回、はっきり聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

8月に入りまして、先ほども答弁させていただきましたように子供たちの感染というのが、あるいは若い人たちの感染というのが、大変多くなってきております。報道でもありますように、子供が感染したら、また、その保護者が感染したら大変家庭の中で困られる状況というのは、いろいろ伝えられておるところであります。子供の面倒・世話については、ご両親なりご家族が行うということは、最も望ましい形だとは思いますが、行政としてどのような支援なりサポートができるのか、今はまだ具体的にはこうしようというのはありませんけども、今後どのようなことができるのか、併せて検討したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

県に任せておいても駄目ですよ。保健所は、市域のこととかそういう全体のことは、市よりも分かかってませんから、市がしっかりとやらないと駄目なんで、よくしっかりやっていただきたいと思います。

今の状況、先ほども言いましたように、ワクチンの2回接種を終えた方でも感染すると。今度のミュー株は、ワクチンの効果を落とす。そういう中でヨーロッパ辺りでは、先進国で3回目接種をやろうという国が出てきてるわけですね。治療薬も開発されてるんで、それがいつ頃になるか分かりませんが、全体を考えれば、今の取組を緩めるのではなくて、しっかり徹底したものにしていく。市民の皆さんによく理解してもらおうということが大事だと思うよね。その点について、どういふふうにお考えかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今、全国的にデルタ株が拡大しておりまして、大変感染力が強いと。新保議員言われるように新しい変異株が、また将来出る可能性は十分予測されるわけでありまして。

今、ワクチン接種については、希望される方全員に速やかに接種できるよう進めておりますし、また併せて、新しい生活様式の徹底を市民の皆様にも、いま一度しっかりしていただくよう啓発に努めていきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、やはり新型コロナウイルス感染症の対応は、県が主体でやっておるわけでごさいますし、県がやる事業でごさいます。それを超えて糸魚川市はできるものではございませぬ。

ただ、その対応について、我々はいろいろと市民の感染者に対しての対応について提言したり、また、連携させていただいたり、今進めさせていただいております。やはり我々から見ても不自然なものについては、不自然だと申し上げておりますし、そういった形で我々市民の生命の安全や、またそういった感染症に対して取り組んでおる状況でごさいますし、決して県より先に対応するということは、できる状況ではございませぬ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

予定されている方が、全て接種が終わるのは、10月末なんですか、11月半ばなんですか。その辺のところ一応予定、市の考え方を聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

市長が答弁しましたように、10月までに対象者の9割のワクチンが供給される見通しです。その結果、11月にはやれるということですが、接種率がどこまでいくかという部分もありますので何とも言えませんが、今の感じでいくと11月の中でも少し早い時期に終わるのではないかなといった観測も持ちながら、少しでも接種していただけるように周知に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

予定されていた方が全て接種が終わると、人口比、どのぐらいの方が、何%の方が接種終わったということになるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、12歳以上の人口では、9割が打ち終わると。今度、全人口ということになりますと85%程度なのかなというように計算しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

新保議員。

○4番（新保峰孝君）

85%というのは、1つの数字として出てるんで、できるだけ大勢接種できるように対応していただきたいと思っております。

特に市民の皆さんが困るようなことがないように、保育園とか幼稚園、小学校、中学校、高校生もそうですが、そういう今まであんまりかかりにくいと言われてきた方たちもかかってくる。そういう方たちが、親から子か、子か親からは分かりませんが、家族みんな感染して、非常に困ったということのないようにぜひ対策を検討して行って、早く取ってもらいたいということを述べて、終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。再開を4時といたします。

〈午後3時50分 休憩〉

〈午後4時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。〔8番 渡辺栄一君登壇〕

○8番（渡辺栄一君）

渡辺栄一でございます。本日、5番目で最後の一般質問となり、大変お疲れとは思いますが、よろしく願いいたします。

市民の皆様方をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げるまち、人口増を目指し、活動することで当市の翠の交流都市、さわやか、健やか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じております。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、当市職員における官製談合事件での判決、副市長辞任に至る責任及び職員全体に及ぼす職務のモラル意識の低下について。

8月18日に新潟地方裁判所で開かれた初公判では、当該職員が2018年以降、駅北大火復興事業をきっかけに価格漏えいを繰り返していたことを明らかにし、企業との間で癒着があり、「常習的な犯行」であると非難され、他にも漏えいがあることを非常に危惧しております。そして、8月27日に執行猶予付きの有罪判決が言い渡されました。

- (1) 市長が庁内におけるコンプライアンスの責任者であることについて、改めてどのようにお考えになっていきますか。
- (2) 現状況下において、市長として庁内に求心力はあると思いますか、思いませんか。
- (3) 副市長辞任に至ったご自身の責任はあると思いますか、思いませんか。そもそも客観的に見て、適任者だったのでしょうか。
- (4) 失態続きで、市職員の業務に対するモラル低下につながるおそれはありますか、ありませんか。
- (5) 入札問題や副市長の発言などで市政を心配する市民の声があります。市政に対する信頼回復にどう取り組まれますか。
- (6) 27日の判決をどのように受け止めていますか。

2、当市における観光エリアの設備・環境・保全状況について。

糸魚川市のホームページの「教育・文化」に、「高校を核とした地域人材育成事業」の項目があり、その中に「糸魚川高校2学年生徒が糸魚川市への提案を発表しました」が掲載されています。プレゼンテーションを行ったある1つのグループから、観光地が整備されていない旨の指摘があり、その指摘が当市の観光スポットで生かされているのか伺います。

- (1) 現在の「月不見の池エリア」をどのように評価されていますか。また、池の水位が下がってきていることや水質について、継続して調査するお考えはありますか。
- (2) 月不見の池には大立岩と小立岩があり、現在、木が生い茂り、岩肌が見えない状態となっています。巨大な岩そのものが存在する、本来の迫力ある景観が損なわれていることから、伐採等の必要があると思われませんが、市長のお考えはいかがですか。



(3) 親不知エリアは、梅海新道の起点と接する人気スポットと思われませんが、どのように評価されていますか。コミュニティロードの岩壁には「矢如砥如」の文字が刻まれています。草などが垂れ下がり見えにくく、道路も草刈り等が必要と思いますが、いかがお考えですか。

### 3、大糸線等の利用促進状況について。

糸魚川市において、北陸新幹線の開業で利便性が格段に上がりましたが、ローカル的存在の大糸線の利活用の状況について伺います。

- (1) 糸魚川駅での大糸線利用客数を把握していますか。今後の推移状況に希望が持てますか。
- (2) JR西日本・東日本の各社、えちごトキめき鉄道との連携は取れていますか。
- (3) 松本市からの大糸線の利用状況を調査し、海のある当市に来てもらう仕組みづくりや姉妹都市の塩尻市とも互いに協力することで、利用客の掘り起こしが図られるのではないかと思います。いかがですか。
- (4) 現在、北陸新幹線糸魚川駅の利用者は駐車料金が4日間無料ですが、大糸線やえちごトキめき鉄道の利用者にも1日だけでも無料にできませんか。
- (5) 新駅「えちご押しひすい海岸駅」の利用客数調査を6月以降行いましたか。結果はどうでしたか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、職員に対する管理監督責任を重く受け止めております。

2点目につきましては、市民の信頼回復に向けて、職員と一丸となって再発防止に取り組んでまいります。

3点目につきましては、在任期間中、前副市長からは、市政の発展に努めていただきました。

4点目及び5点目につきましては、官製談合再発防止対策検討委員会の提言などを踏まえ、取り組んでまいります。

6点目につきましては、職員を管理監督する立場として、重く受け止めております。

2番目の1点目につきましては、地滑りで運ばれた巨石と湧き水が生み出した景勝地であります。また、水位・水質対策検討委員会での検討結果を踏まえ、今年度も継続して、水位・水質調査を行っております。

2点目につきましては、地元関係者と現地の状況を確認する中で、良好な景観の維持に努めていきたいと考えております。

3点目につきましては、断崖絶壁と4世代の道の変遷を見ることができる地形的・文化的に貴重なエリアであります。

また、ご指摘のコミュニティロードにつきましては、適切な管理に努めてまいります。

3番目の1点目につきましては、市の調査等により近年、利用状況は減少傾向にあります。大糸線活性化協議会において、利用促進事業に取り組んでいるところであります。

2点目につきましては、JR西日本、東日本と沿線自治体で構成する大糸線活性化協議会や、えちごトキめき鉄道と白馬村以北の自治体などで構成する日本海ひすいライン等利用促進協議会の活動を通じ、連携を図っております。

3点目につきましては、塩尻市からの旅行商品などによる大糸線の利用促進を検討いたしております。

4点目につきましては、社会実験として最大48時間無料化を実施いたしましたが、鉄道利用の増加にはつながりませんでした。

5点目につきましては、7月に調査を実施いたしております。5月の結果と比較すると、夏休み期間中ということもあり、平日の利用は少なかった一方、海水浴客などで休日の利用は増えるという結果でありました。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

それでは、2回目の質問に入ります。

新駅公衆トイレ整備工事には、組織でチームをつくって行っていると思いますけれども、元職員も含めて何名で行っていたプロジェクトなんのでしょうか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

トイレの建設と一言で申しましても、計画をする段階、あと国等といろいろ折衝する段階、後は実際に委託工事を発注する段階とそれぞれございます。また、発注する係も異なりますので、一概に何名というふうには、今ここですぐ積み上げてカウントすることはできませんが、大変多くの人間が、あのトイレには関わっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

そうですね、ちょっと数が多いということで、いうことなんですけれども。上司も含めて、例えば同僚など、何か相談できないというんでしょうか、できるといいますか、そういった環境であったといいますか。そういったことはどうなんでしょうか。やっぱりそういった環境ではなかったということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私は、できれば技術屋出身でもありますので、そういう職員に対しては、なるだけ声かけたりして、空気づくりには努めてまいったつもりですが、裁判のときに本人から、そういう相談もすればよかった。裏を返せば、できなかったということですので、彼の感じた考え方とすれば、そういう相談できる空気はなかったということになるかと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

落札率の高さが、やっぱり異常だと思わなかったことに、ちょっと組織として動いてて、思わなかったのかなというふうな、私、大変不思議に思うんですね。その事業者に丸投げをしたというわけでもないわけですし、自分が担当してて、何かこうちょっとおかしいんじゃないかって、誰かこう、たくさんの方が携わってるのであれば、何か分かったんじゃないかと思うんですけども、そこら辺はやっぱり、本当に変な言い方ですけど大体その組織にいる人間が携わってれば、やっぱり分かると思うんですよ。じゃなかったら本当に担当要らないという変な言い方ですけども、そのように感じるんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

何回かお答えさせていただいているように確かに今となってみれば、この工事については99%を超える工事ということで、高い落札率ということだったと思います。

ただ、何回か申し上げているように、基本的には入札については、予定価格から最低制限価格の中で落札していれば適正に行われたという認識でおったということで、今回のような高い落札率については、疑問を持っていなかったというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

改めてなんですけども、制限付き一般競争入札の必要性について、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

工事等の、誰にするかという部分でいろいろやり方はあるかと思います。

ただ、市としては、原則としては一般競争入札によるよということが、財務規則で定められております。

ただ、一般競争入札になりますと、いろいろな事業者が入札のほうに参加するという部分もあって、当市の場合では、原則として市内に本店がある事業者でできるものについては、その地域要件という部分で制限を行っていたという部分でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと素朴な質問で申し訳ないんですけども、糸魚川市内の建設、土木に関わる企業は、糸魚川市と談合を行わないと成り立っていかないのか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

その件については、市としては分かりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

そうですね、なかなかのりくらしじゃないんですけども、なかなか私はちょっと真似ができない答弁だなというふうに感心しております。

企業や自治体も含めて、コンプライアンス、法令遵守、ガバナンス、統治、SDGs、持続可能な開発目標に関して取組がなされています。特に民間企業では、自社のイメージアップや有能な社員を獲得するため、関連する部署までつくっていますけれども、当市では、そういった推進室みたいなものを置く考えというのはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

コンプライアンスの推進につきましては、今、第三者検討委員会でも検討してますし、庁内委員会でも検討しておりますが、必要と感じておりますので、設置の方向で検討してまいっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

では、1番から2番に関して、ちょっと質問させていただきます。

市長にお伺いします。

市長は、当市の行政トップでありますから、やはりもっと強く指示とか、あるいは指導したほうが、私はいいと思うんですけども、この場でちょっと活を入れてもらえないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市といたしましても今調査をしておる状況でございます。今、そして庁内では、こういう事件が起きたということを実に重く受け止めさせていただいて、そして、第三者、部外者から、またいろいろと今回の事件について、いろいろと調査させていただいて、そしてそれをもって市としても、そういう二度とこういった事件が起きないように対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

関連してで恐縮ですけども、副市長は、名刺代わりに何か今の市長のお言葉に続いて、何か付け加えるようなことはありますでしょうか。例えば総取替えをすとか、何かそういったお考えはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

1人の職員が起こした不祥事が、これだけ組織としてダメージを負うというのは、改めて認識しております。ほとんどの職員が真面目に仕事をしている中で、こういったことが起きますと、職といますか市全体へ信用が失墜しますし、その事後対応に時間を要することになってしまって、結果として市民の皆さんへの対応する時間が減ってしまうと。こういったことがないように、改めまして、今いる職員全体でしっかり法令遵守を努めていきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

では、3番目の質問ですけど、(3)についてなんですけれども、藤田副市長の在任期間というのはどのぐらいだったんでしょうか。ちょっと聞きづらいことかもしれませんが、例えば今不起訴となった場合どのぐらいの退職金が、幾らぐらい支払われるのか、ちょっとお聞きしたいので

す。これも貴重な税金です。

また、再就職先というんでしょうかね。頼むねということで、決まってんのかということなんですけども、併せてお答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

在任期間でございますが、平成30年の12月3日から今年の8月13日までが任期期間でありました。

退職金につきましては、今細かい数字ちょっと手元にございませんですが、300万から400万ぐらいただたと記憶しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

今のところ再就職先というのは、決まってないということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お辞めになった藤田前副市長からは、特にそのようなお話は聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

（4）に関してです。いろんな手続とか遅れてしまって、窓口では規則だとか決まりだとか言われて、悔しい思いをして帰られた市民の方も多いと思います。

一方で、事業者には甘いという守秘義務を果たしておらないで、そういった業者には甘いというそういったことはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

基本的には、それぞれ法令なり条例なり規則なりに照らし合わせて、職員にも事業者のほうにも対応しているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

それでは、じゃああれですかね、市役所全体が前例主義だとか、親方、日の丸だとか、あるいは事なかれ主義だとかというようなことにはなっていないということで理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

議員、今おっしゃった部分については、一般的に公務員が至りがちな傾向という部分でございます。当然のことながら職員研修等の中で、そういうことにならないように住民のほうを向いて仕事をするんだよということについては、職員に対しては常々、先ほど申し上げたように研修等なり職場内なりでお話ししながらやっているとところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

市長にお伺いします。

5番目（5）になりますけれども、4月18日の投票日と、やっぱり現在とでは状況が一変してんじゃないかと思うんですね。改めて市民の皆様に信を問うというようなお考えはありますでしょうか、ありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

信を問うというその意味、ちょっと私はどういうふうに言われてるか、ちょっと真意が分かりませんが、私といたしましては、やはり信頼回復にしっかりと努めていきたい。私の管理監督責任というところを捉えたときに、そういった責任はあるだろうということで、その任命責任としてのそういうところをしっかりと受け止めさせていただいて、信頼回復に職員と一体となって取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

冷めたピザのようだと言われた人がいましたけれども、改めてこれを、何て言うんでしょうかね、レンジでチンというんでしょうかね、レンチンすればおいしいということで、やっぱりV字回復につながると思うんですね。信頼回復には、やっぱり市長の公約の実現に向けて、汗をかいていくしか、以外ないと思うんですね。私、期待しているのは、やっぱり公営塾の開設だとか看護師養成学

校の設立、市長の公約にも書いてある実績は信頼というようなフレーズがありまして、これなかなか言えないことで、16年やられて今度5期目というようなことでございます。ぜひこれ市長、何ていうんでしょうか、課題はあるかとは思いますが、ぜひやっぱり仕事で汗をかいて信頼を返していくしかないと思うんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

それから、これ私の意見、1つのあれなんですけれども、やっぱり職員の冬のボーナスなんですけれども、やっぱりちょっと一律カットするような考えというのはないでしょうか。やっぱりペナルティーという意味で、やっぱり職員一丸となつてということであれば、やっぱりそれもありませんかとは思いますが、そこら辺の考えはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

信頼回復については、先ほども言いましたように一生懸命やはり回復に、職員と一体となって取り組んでいきたいと思っております。また、今言ったように給与とか没収とかという話については、やはり組合がございまして、そういったのでちょっとここではお答えできませんが、前段でも議員ご指摘のように、私はしっかりと選挙のときに申し上げた公約については、しっかりと果たしていきたい。そして糸魚川の発展に少しでも、今期、務めていきたいというつもりで、しっかりと捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

(6)についてです。ちょっとよく分からないのが、動機が、入札不調で工期が間に合わないということだということなんですけれども、3日からの一般質問の中で話を聞いてみると、そうでもないというような答弁でした。働き盛りといいますかね、元職員の、そういうことであれば、働き盛りの元職員の正義というのは、私はないと思うんですね。

ただ、彼の蜂の一刺しではありませんけれども、正義があるとすれば、ほかにも漏えいしていたことを述べているんですね。それが、自分のみなのか、ほかにも誰かいるのかは、あれではちょっと私は分かりませんが、これが真実だとすると、やっぱり看過することはできないのではないかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

久保田の公判、裁判の中で久保田本人のほうは、自分個人で、ほかにはいないというような証言をしていたというふうに記憶しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

何となくではないんですけども、終わるところか、始まりの始まりのようなふうに思いますけども、いかがですかね。これがもう何か大疑獄事件に発展するんじゃないかと思うんですけど、そんなことはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

現段階では、ちょっとどこまでどういう影響があるかというのは、分かりかねるところが正直なところです。

今回の裁判、事案については、一応、警察なり検察のほうでいろいろ調べた中で立件したのが、今回の事件というものだというふうに認識しております。ですから、今後の影響については、少し市としてはどのようなことがまたあるのかという部分については、全く分からないというものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

法と証拠に基づいて、しっかり全容を解明するということによろしいですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

現段階では、先ほど申し上げたように、警察と検察の捜査の中で今回の件が立件されたということだというふうに認識しとるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

彼個人の問題なのか、それとも担当部署の長年の地元業界の癒着が、そのようにさせたとは思いませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

その点に関しては、私自身ちょっと証言聞いている限り、分からないということが正直なところ

でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

時間も差し迫ってますので、2番目の質問に入ります。

月不見の池に関してでございますけれども、昔は、かつて水がきれいでイモリの卵っていうんでしょうかね、そういったものがあつたように記憶しておるんですけども、今はちょっと見受けられなくて、水位も下がって、何ていうんでしょうかね、非常に昔の面影というのは全くなくなってきておるんです。今はどうかちゅうと、何か脇から用水か何かを入れて、プロレスでいうと3カウントまで許される感じなんですけども、どうもかなり反則行為が続いてるように思うんですけども、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

月不見の池につきましては、以前は水が豊富にあつてということで、地元の皆さんからも何とかならないかということでご意見を頂いていたところであります。

そんな中、平成29年のジオパーク学習発表会におきまして、下早川小学校の児童からも同様のお話がありまして、それをきっかけとして水位・水質対策の検討委員会によりまして、検討してきたところであります。新潟大学ですとか上越教育大学の教授からも入っていただきまして、検討してまいりました。正確なところは分からないんですけども、やっぱり水の収支のバランスが崩れて、水が減ってきたということでもあります。全体としては、地下水の水位が下がっておるということでございます。

そんな中、ある程度水を入れたいという地元のお話もありまして、用水から水を入れて、何とか池ということで対策を取っておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ちょっと今のところ致し方ないというような、そういったところなんですか。

関連して、池を見て、すぐ帰ってしまうということらしいんですね。せつかく来てもすぐ帰ってしまつてということで、本来は、池の周りを歩けるような状態になっているんですけども、できれば何かすぐ分かるように池の正面すぐに立て看板みたいなものを設けていただいて、大体1周15分ぐらいで回れますよみたいな、何かそんなような看板を新たに設置してはどうかと思うんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

月不見の池の案内文につきましては、駐車場のところと、あとトイレの辺りについておるんですけども、おっしゃるとおり遊歩道で1周500メートルで15分ぐらいで回れますよということになっております。

ただ、全体的に施設も古くなってきていたり、うっそうとした感じになっておりますので、また、地元の皆さんと協議させていただいて、分かりやすいところに解説板を作るなり、今後また検討してみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

あわせて、紙ベースでも何でもいいんですけども、何か簡単な案内図というんでしょうかね、ポストみたいところを設けて、そこに紙ベースで何かこういった大立岩だとか小立岩があるよとか、そういった何かものがぱっと見て分かるような、それで1周15分ぐらいだとか、そういったようなものも作っていただくと非常に分かりやすいんじゃないかというふうに思うんですけども、そこら辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

案内の方法は、いろいろあるとは思いますが、紙ベースのものとか、QRコードを使ったものというふうにいろいろあるとは思いますが、紙ベースのものにつきましては、ポスト的なものはいろいろありますけども、例えば夏場に虫が入ったり、風で飛んだり、雨にぬれたりということで非常に管理が難しい状況もありますので、また、現地の状況も踏まえまして、対応できればしてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

欲を言えばというとな変な言い方なんですけども、結構やっぱあそこも草がかなり生えてまして、ボランティアで私も2回ほど草刈りというか周辺、あそこの周辺なんですけども、させてもらったんですけども。なかなか定期的というんじゃないんですけど、毎月、ロードの脇というんでしょうか、毎月1回でも草刈り等をしていただくと、なかなか今人手不足ということもあって、そういったこともありまして、できれば草刈り等もお願いしたいというふうに思っておるんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

トイレの清掃ですとか遊歩道の管理を含めまして、草刈りですとか樹木の伐採・剪定につきましても、地元の観光協会ですとか、用水組合、農家組合等に委託させていただいているところであり、毎月1回できれば一番いいんでしょうけども、費用の面もございますので、その辺、また相談させていただいて、より適切な状態で管理ができるように、また検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

(3)の親不知エリアなんですけども、本当に正面から見て、岩壁というんでしょうか岩場の壁のところのコミュニティロードのところなんですけども、本当に正面から見て左側に何か「矢如砥如」の左側にも何か文字が刻まれてて、現在はツタなどが岩にはびこってまして、何か書いてあるんでしょうけれども、非常に見えづらくなっておるんですね。ですから、ぜひ取り除いて、それもちょっと取り除いていただけないかということなんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

コミュニティロードの岩壁、「矢如砥如」という文字に書かれております岩壁に向かって左手にも字が、縦に文字が彫ってございます。それも含めまして、非常に道路から、地面から高いものですから、高所作業車のような重機を使って、やる方法を建設業者等と相談しまして、実施したいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ありがとうございます。ぜひよろしく申し上げます。

もう一つ、あそこといいますかロードのところ、ちょうど300メートルのちょうど中間点のところ、かなり崖崩れじゃない、何かへこんじゃっているんですね。ちょっと陥没してるというんでしょうか。ちょうど300メートル、間あそこは600メートルぐらいあるんでしょうか。ちょうど中間点になるんですけども、ちょうど300メートル、300メートルという、左右のちょうど分岐点のところ、ちょっともう大地も動いてるということなんですけども、ちょっと陥没してるということがありまして、そこもぜひ修復のほうをお願いしたいと思います。そこら辺は認識されてましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

ただいまご指摘の点、それからそのほかにも多少崩れてるところ、あるいはガードパイプが雪で押されて曲がってる、変形してるような箇所等がありますので、そこら辺も含めて、現地をもう一度確認しながら、対応できるものは対応したいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

そこからちょっと下っていきますと、れんがのトンネルがあります。歴史的に価値が高いんだと思います。中に入っていこうと思ったんですけども、トンネルの中がやっぱり薄暗いというんでしょうかね。私はもう60過ぎてまして、男なんですけども1人ではなかなかちょっと怖いといえますか、何か襲われたらどうしようかみたいな、そういったところなんですけれども。何か風の音なんじゃないかな、何か音が聞こえるんですよ、中から。そうすると誰かいるのかなとか、非常にちょっと心配といえますか、できればもう少し中を明るくできないもんかなと。今、懐中電灯を置かれて、一方通行で行って、もう懐中電灯は置いてきてもいいですよみたいなことは書かれているんですけども。できれば仮に1人で行く人はいないのかもしれないんですけども、もし1人で行く人を何か安全・安心というわけじゃないですけども、できればもうちょっと中を明るくしていただけたらよろしいんじゃないかなというふうに思うんですけども、そこら辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪股青海事務所長。〔青海事務所長 猪股和之君登壇〕

○青海事務所長（猪股和之君）

親不知レンガトンネルにつきましては、トンネルの中に海側、ホテル親不知側から入りますと、向かって右手のほうに歩道がついておりまして、足元を照らす明かりがございます。それと懐中電灯を持参してくださいということで、懐中電灯も置いてありますが、中に入りますと電球が切れておったり、暗いところもありますので、現地を確認する中で対策をちょっと検討してみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

あのトンネルは、蒸気機関車が走っていた当時のトンネルということで、その当時の風情を大切に、今の薄暗さはあろうと思いますが、それを基本的には維持をさせていただきたいというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

私、サラリーマンのときに糸魚川は何があると聞かれました、ヒスイと新幹線があるよと答えました。ほかの同僚には、親不知・子不知があるじゃないかと言われて、私そのとき全く知らなくて、あれは富山県ですと言ってしまうと、後で訂正しましたけれども。意外と糸魚川のことというのは、私あんまり知らないといいますかね。やっぱり観光スポットは、まだいろいろたくさんあると思うんですけども、やっぱり何か思うんですけどアナウンスが弱いのかなというふうに全体的に思うんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

全国でいろんな観光地ですとか観光施設がPRされてる中、また情報があふれてる中で、なかなか目立つようなPRというのは難しいんですが、全国の皆さんから知っていただいて、また訪れていただけるように努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ありがとうございました。よろしく申し上げます。

では、3番目の質問に入ります。

1番目の件なんですけども、（1）番に関してなんですけども、大糸線の駅周辺の住民の利用客というのは、ほとんどいないといいますか、かなり難しいと思うんですけども、何か駅周辺地区でイベントというんでしょうか、そういったものをして、利用客を増やす以外にはないと思うんですけども、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

地元の鉄道ですので、各駅それぞれ関わる沿線の方から、もっと関わっていただきたい、本当は乗っていただければ一番いいんですが、用事もないのに乗るわけにいかんと思いますので、関わっていただくということは必要かと思えます。

そういう中で、各駅ではないんですが、例えば大野小学校の皆さんから大野駅を少し飾っていただいたり、あと根知駅を若干過ぎたところで、これは市内から少し募集して、沿線に花を植えたりという、地道な活動はしておるところなんですけども、やはり沿線人口というのは限られておりますので、直接の乗り数というところにはつながっていかないというところなんですけども、鉄道ですので、そういう生活に密着した部分の活動についても継続はしていきたいというふうに、私どもは考えて

おります。

以上です。

○議長（松尾徹郎君）

質問の途中ではありますが、あらかじめお諮りいたします。

質問時間が午後5時を過ぎることが予想されますことから、本日の会議時間を延長したいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、会議時間を延長することに決しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

なかなかちょっと今すぐというのは難しいのかなというふうに思いますけど、引き続き、知恵を絞ってやっていただきたいとそのように思います。

(2) についてであります。乗り継ぎだとか、そういったものを含めて、あの駅自体がワンセットだと考えておるんですけども、そういったことで考えておりますけども、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

糸魚川駅は、当然3路線、JR2路線、並行在来線1路線ということで、非常に恵まれた環境にあるかと思うんですが、じゃあ大糸線で考えてしまいますと、大糸線も、じゃあ新幹線に合わせるのが、えちごトキめき鉄道に合わせるのか、また南側に行ってJR東日本に合わせるのかという、それぞれの選択というのが出てきます。会社の違うということもございます。それで、ちょっと今日細かい数字は持ち合わせていないんですが、やはり朝・夕みたいなやつは、通学に資するように、えちごトキめき鉄道に接続していたりですか、それなりに考えられてはおるんですが、何せ単線であつたり車両の数も限られておるということから、あっちを立てればこっちが立たないというような苦しい状況ではございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

やっぱりお客さんを増やすしかないという、そういったことに尽きるんだろうと思います。

(3) についてです。具体的に何か松本だとか塩尻と何か具体的に行っているんでしょうか。何かちょっと詳しく説明していただきたいんですけども、効果はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

姉妹都市であります塩尻市とは、毎年、市民号というものを行っております。コロナ禍で、今は止まっておりますけども、過去の市民号では、大糸線を利用して行ったこともありますが、今はダイヤの関係ですとか列車の本数の関係で、時間的な制約がありまして、近年は大糸線の利用が困難な状況であります。

ただ、大糸線につきましては、観光客を増やすというところが、乗客を増やすところしかないと思っております。なもんですから、日常的な利用というよりは観光商品として、商品を作って、それを売って、利用者から楽しんでいただく。

または、松本から糸魚川まで普通列車だけですと4時間ぐらいかかります、塩尻からですかね。特急を使っても3時間半ぐらいかかります。なもんですから、乗ってる時間を楽しんでいただくか、旅行商品として何か特別なことをやるかというところが考えられるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

加えて、説明させていただきます。

市長答弁にもございました大糸線活性化協議会というものがございます。これは大糸線の利用促進に特化した活動をしていこうという趣旨で、もう鉄道利用をいかにして増やすかというところを観光を切り口に、生活も横目に見ながらという状況で、これは関係自治体としては、JR東日本のエリアである大町市から北側、白馬、小谷、糸魚川ということで、構成してます。当然、両県も入っておりますし、JRのほうも西、オブザーバーとして東というのは入っておりますので、それぞれの強みを生かした利用促進がかなりいろいろ、雪月花の乗り入れから始まって、こども車掌体験とかもかなりやりかけておったところ、令和元年の台風19号とか、その後のコロナとかで、今はネットを通じていろいろ大糸線応援隊とかいう、少しPRとか口コミで広げるというような、そういう作戦を取ってるんですが、沿線4市で連携して、大糸線の乗りにつなげていこうという活動は、活発にやっとなるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

私も8月8日に大糸線を利用して、塩尻のほうに行ったんですけども、どうも白馬から松本へ行く方面が、やっぱり行く人が多いなというふうに感じたんですね。東京へ行く人もいるという



こともあるのかもしれませんが、あれを、あれをと言うと失礼な言い方ですが、あの方々を今度やっぱり糸魚川へ来てもらえない理由というのは何だろうかというのを思うんですけども、そこら辺は考えたことはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私も列車、電車に乗って大町市役所まで行ったときに、ワンボックス1人の状態が、白馬からは立ち席が出るぐらいというような状況であります。

理由の中で、例えば列車の観点で見ますとやはり南小谷駅含めて、それ以南は東さんのサイドで、一番ご利用の時間帯に合わせた設定ですとか、あずさとの接続とか自由にできるんですが、こっちの大糸線にしてみますと、新幹線も見なきゃいけないですし、小谷も見なきゃいけないという、そういうちょっと難しさもございます。

ただ、長野県の皆様も新幹線がどんどん西に延びていって、将来的には大阪に、そうすると南から入って北に抜ける、北から入って南に抜けるという意味で、そういう意味でも大糸線の活性化協議会に私どもと一緒に参加して、盛り上げようという活動をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

総じて、スピード化も大事なんですけど、やっぱりゆっくり景色を見ていきたいといいますかね、そういったニーズは必ずあると思います。廃止が決まってからではおしまいなんで、ぜひ市として企画等も考えて、利用客増に向けて、策を練ってもらいたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今コロナ禍で、活性化協議会で計画している事業をことごとく実施できない、人の動きを伴う、やはり実際の乗りをいかに増やすかということで企画を中心にしておりましたので、今そこが歯がゆい状況なんですけど、逆に今だからこそ、こういうプランってどうだろうかということを観光協会の皆さんと、ただ私どもは思いつきベースでも、それが実際、商売ベースに乗っていくかどうかは、そういう逆に力を蓄える期間ということで、私たちの仕事自体は、前には進めておるような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ぜひお願いいたします。

5番目の問ですけれども、ちょっと新しい新駅の利用数というんでしょうか、ちょっと思うように伸びてないというような、そういった回答でしたけれども、具体的に何名だったんでしょうか。教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

新駅の費用対効果を算定するときに需要予測というものがございまして、これはルールに基づきまして計算した結果ということで、開業前ですので、それが数値としては742ということに對しまして、5月の調査の時点では、乗降で226名、7月の調査では184名というのが調査結果でございまして。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

7月のいつ調査されたんでしょうか。夏休みに入ってからでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

すみません、日付は今押さえておらないのですが、通学が、5月の184人から半減しております。担当のほうでも夏休み期間中で高校生の利用が少なかったということで、夏休み中の期間でございまして。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

じゃあ、あと2回ほど調査されるということで理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

新幹線、在来線とも定期的に調査をしております。押上駅に関しましても開業1年目でございますので、少し、例えば春、開業直後、夏休み、あと普通の平常期、年末年始とかビッグトピックのときに小まめに計測は必要かというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

やっぱりここは正直、海水浴客か高校生しかないんじゃないかなというふうに今思っているんですけども、海水浴に来たという、そういうのはやっぱり分からないというんでしょうかね。そこら辺はどうだったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

7月の休日のときの調査で、私どもの調査、人数だけ数えるのではなくて、直接聞くわけではないんですが、お子様連れ家族4人が糸魚川方面から来られて、少し海に行くようなバッグを持っていくという、私どもにしてみれば鉄道に乗って海水浴に来てくれるお客さんがおるんだというのも、ある意味新鮮でしたので、その辺は地元のほうからもいろいろアイデアも頂いておりますので、そういうニーズの掘り起こし、拾い出しというのは、やっていかなきゃいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足して、ご回答いたします。

押上海岸につきましては、石拾いのお客さまもいらっしゃいまして、そんな中、地元押上区の皆さんで、石の簡単なガイドといいますか解説をするような動きもございますので、また、地元の皆さんとも連携して、研修とかいろいろノウハウの情報交換をするなりということで、ぜひ石拾いのお客さんに対しても対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ありがとうございました。

では、最後となりますけれども、まちの衰退というのは、やっぱり救うのは市長しかいないと私は思っております。ぜひ市長、この場において抱負といいますか決意を改めて述べていただきたい

と思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、糸魚川市にとっては、非常に今大きな課題を抱えていると思っております。人口減少、そしてさらに少子化・高齢化、また、それに伴っていろんな社会現象が起きておると思っておりますし、それに加えてコロナ禍という状況でございますので、やはりこの糸魚川市ぐらいの規模のところというのは、行政の果たす役割というのは大きいんだらうと思っております。そういったところをしっかりと考えながら、この市民の皆様方と連携し、また地元の企業の皆様方とスクラムを組んで、いろんな対応をしていきたいと思っております。また、議会のほうもそういったことをご理解いただいて、また連携を取っていただければありがたいと思っております。一生懸命、糸魚川市の発展のために尽くしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

ぜひ市長、よろしく願いいたします。

以上で、これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後5時11分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員